都名所圖會

平安城
再刻

都名所圖會卷之二目録

平安城尾

官者殿參　祇園御旅所　四條乃場金蓮寺　十住心院 深殿地藏
大雲院　祇園會鉾號　同山鉾圖　手洗水圖
座頭積塔　累河原夕涼號　同芝居　目疾地藏
宮川 鴨川のまゝ　建仁禪寺　蛭子社　六道珎皇寺
六波羅蜜寺　姿見の池　阿古屋塚　焔魔堂
愛宕寺　晴明社　十禪寺社　若宮八幡
五條橋　首途八幡　御影堂　鏡の池
塩竈井　本覺寺　塩竈山上徳寺　塩竈社
太子堂　新善光寺　蓮光寺　長講堂
萬年寺天滿宮　竹林院　鬼頭天皇　等善寺
攜行半郷塚　市中山金光寺　延壽寺　夕顔塚

籬の池　藍染川　花開稲荷社　後成郷社
佛光寺　神明宮　大原社　白天社
固幡茶師　繁昌社　朝日宮　神明宮
諏訪社　新玉津潟社　菅大臣社　五条天社宮
一音寺　壬生寺　同狂云圖　蛭子森
新住吉　荒社社　化粧水　板垣子
天道社　御右刀松　石上宮　更雀寺
本國寺 加茂清正墳　人丸社　醒井　西本願寺
古醒井　興正寺　常樂寺　東本願寺
東殿　松明殿　稲荷祭礼場　金光寺
成真寺　判官塚　宇賀社　萩内紹智家
芹根水　月見橋　稲荷社　不動堂
道祖社　稲荷御旅所　藏王森　寛算石

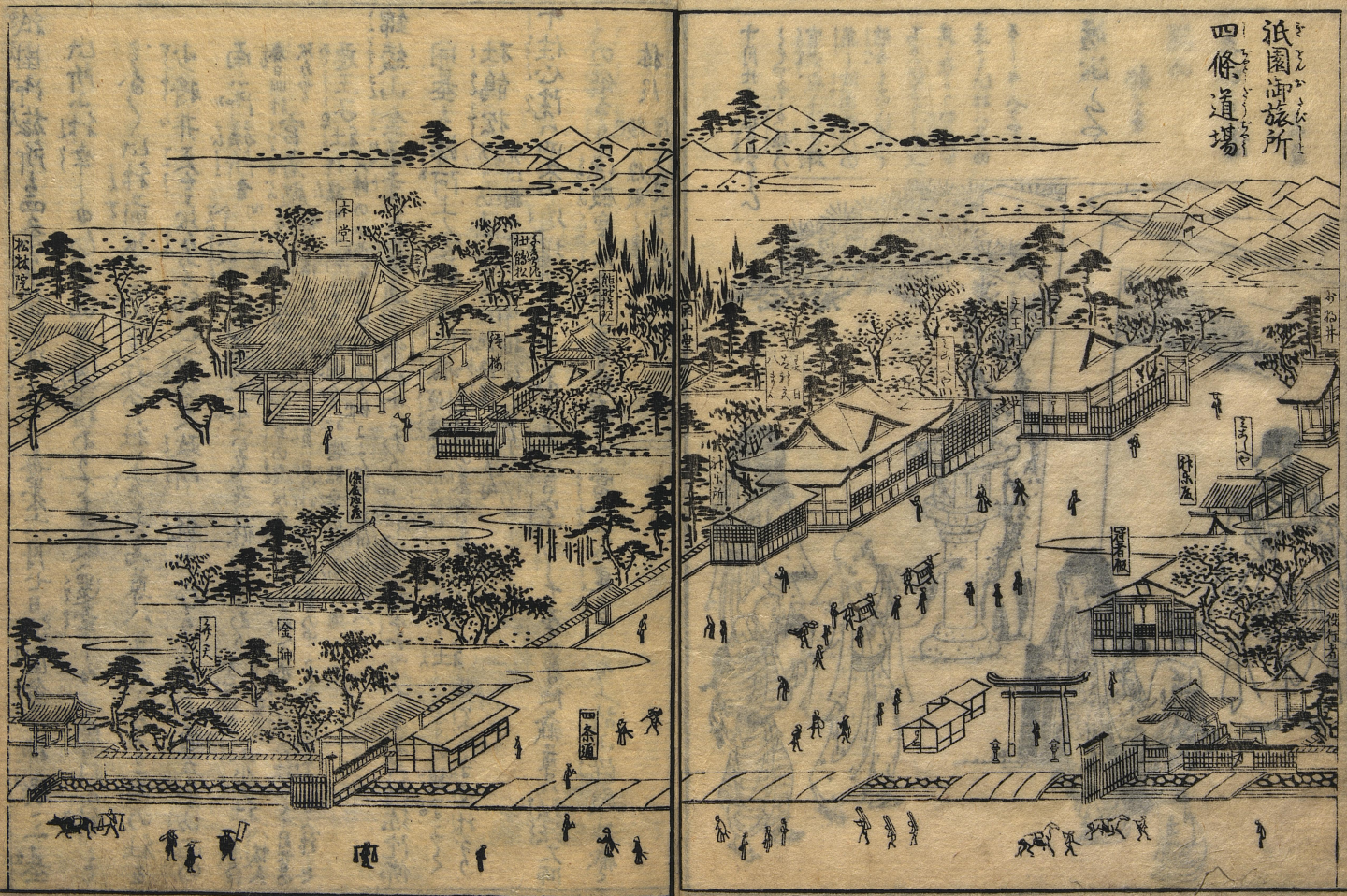
春日森　古御旅　宋守長老　粟潟社
古井社　清盛旧地　住吉社　東寺
三鈷松　松子坊松　延生門旧跡　大通寺
六孫王社　誕生水　蒲仲公誕生地　欽喜森
福大明社森　人丸塚　潟原傾城町

十月廿日は誓文をしひとて四条京極乃官者殿に請て群集し祇園鴨川の浮女もまゐて来てちかひをこゝろひ又其夜より誓文を立るも此神へ見ゆるしゐしかや

浮城ふや
却立
酒の
ゑひとき謙
其角



祇園御旅所
四條道場



祇園御旅所は四条京極の辻にあり毎年六月七日祇園會れ神輿二基
此所に神幸しゆひ同十四日に祭禮ありて本殿へ還幸しゆへ兩日れ山鉾を
こなく此神前ゟ引渡をし北の社ハ素戔烏尊八王子ざなり南の社は
少將井天宮ゟ祭なる初れ二坐ハ大政所ゟ號してむかしハ烏丸通五条坊門の
南に御旅所有 今大政所 所といふ 少將井の一坐ハ烏丸二條の北にあり 今少將井 所といふ 二坐社 天照大神 八幡大
春日明神 官者殿 祭なる所神秘世に土佐坊正尊の靈ゟ祭なるといふ今今祇之又誓文拂の神とて十月廿日の
祭なる 蛭子講に弦人拜を見ハ實ハ日の神と素戔烏尊の中に立ゆひて誓文しゆへ神とも
悪王子社 御旅所小側にあり祇園會神輿臨幸の時烏丸通
又條の北悪王子町より古例によりて神供を祭ゆへ
錦綾山金蓮寺ハ京極通四条れ北にあり 四条道場 時宗にして本尊ハ阿弥陀佛
開基は浄阿上人之親戀地藏 運慶の作之初ハ 熊野社 當寺の鎮守にして
杜鵑松 方丈の東にあり杜鵑洛陽にあり時 時宗の守護神なり
先此樹に至りて啼初れとなり
十住心院ハ四条道場の南口にあり真言宗にして本尊地藏尊ハ弘法大師
の作なり染殿皇后常に尊信ありて當院ゟ建立しゆへ故に染殿地藏と
称ス 額ハ染殿と書して 僧正賢賀の筆也

大雲院



龍泉山大雲院を京極四条北へ南ふあり浄土宗にして智恩院に屬す本尊阿
弥陀佛は惠心僧都の作なり人皇八十四代順徳院の御宇安土論の時浄家に宏
才にして信長公を欺く帰依一方ならず別に八幡山西之坂に建立して真安ら
信職と時に信長公浄父子明智を秀吉為に生害せし事ども真安上人御物語
ありて多くの物を登り二条烏丸辺にありし室坂ありしとて浄善院と号し真後
秀吉公れ命ありて天正のまゝ織田信忠卿追福のため當院坂草創しの
郷の法名を大雲院殿二品羽林仙巌居士と称す（當院の號ありて出ずる信長公信忠
公卿向御詣所なり）
信長公安土浄土城の御真安上人へ七種の寄物被遣今當院の什寶之内
ふ法然上人の一枚紀傳文あり是一休和尚の筆ふ繪像ある圖ふ達磨大師
の後向れ画あり真讃ふ曰

達磨悟らくらくいくさろの胸よりのうち
るんてんもうんわらうの外

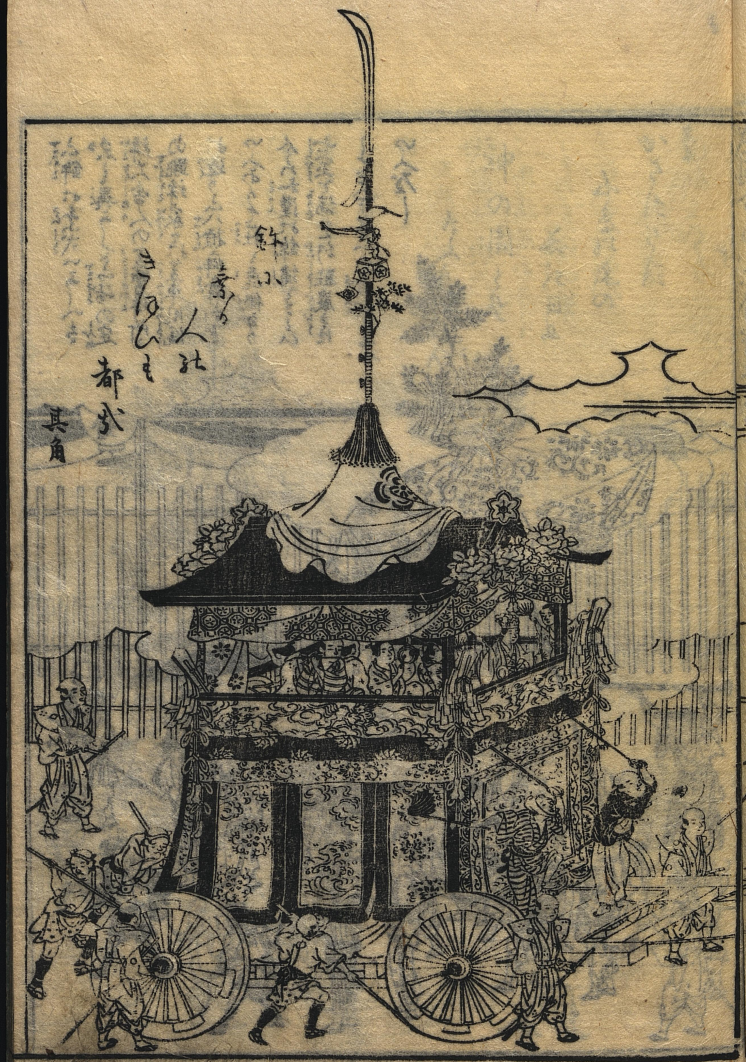
九年ともさせんするあをむやみし城のはいふ院の一喜

一休判

御所所ふ

祇園會の祭礼六月朔日より致齋り四条御旅町ふ神を立る是一乃華
夜の旧地より同北日の吉者今り鉾の町々ふい囃子初あり神輿洗ハ同晦日ふて
御迹桃灯煉物の行粧艶麗ふして洛東の祇ひ六月朔日ハ鉾の児祇園参して
参物あるいハ騎馬ふく真行烈花麗ふして高貴の住来ふ似ざる五日縁の
引初六日の早天ふい六角堂ふ井ありふ鉾行烈前後の園取ある此日の夕ふ
宵宮錺ふて鉾ふ日のめくりふ五桃灯もどく連て夜ふ入ふて囃ふあり
貴賤ふ群集いふ方ふ一七日ハ祇園會ふて外の神りふ鉾烈ふし四条通り
京極を南へ松原坂西へ引渡をふ七日神輿の参礼いまの神ありて感神院より御
旅所へ神幸あり又八日より十四日ふ鉾の宮ありて十三日ふ祇園取あり廿四日
ふ鉾ハ二條通を東ふ京極を南へ四条坂西ふ引渡ふて神輿の参ハいまの旅所より
四条坂西へ東洞院より神輿ハ南ふ引別ふて後りふ二條ふ西又旅社へ同然ふ
二条坂東へ還幸ありて同十八日ふいまの輿洗ふて晩日ふ至ふ祇園晒川のかりハ
作華れ如く群をるり鉾の図ハ二て挙ふる全図別ふ古實の次第ハ祇園會細記ふ
くわしく暗ん

祇園會





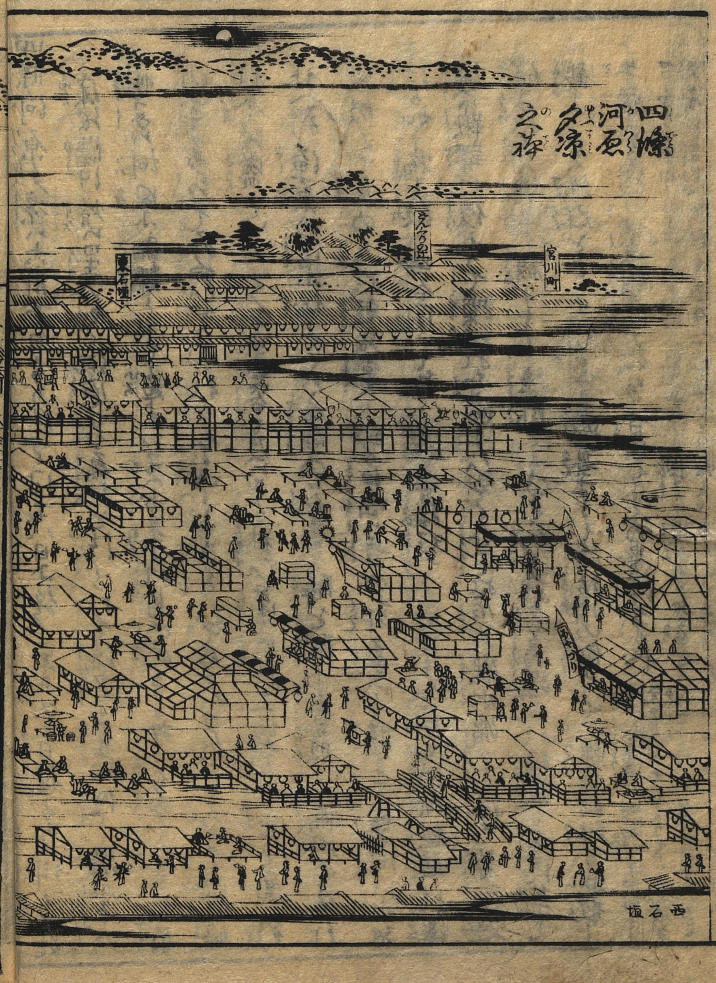



手水

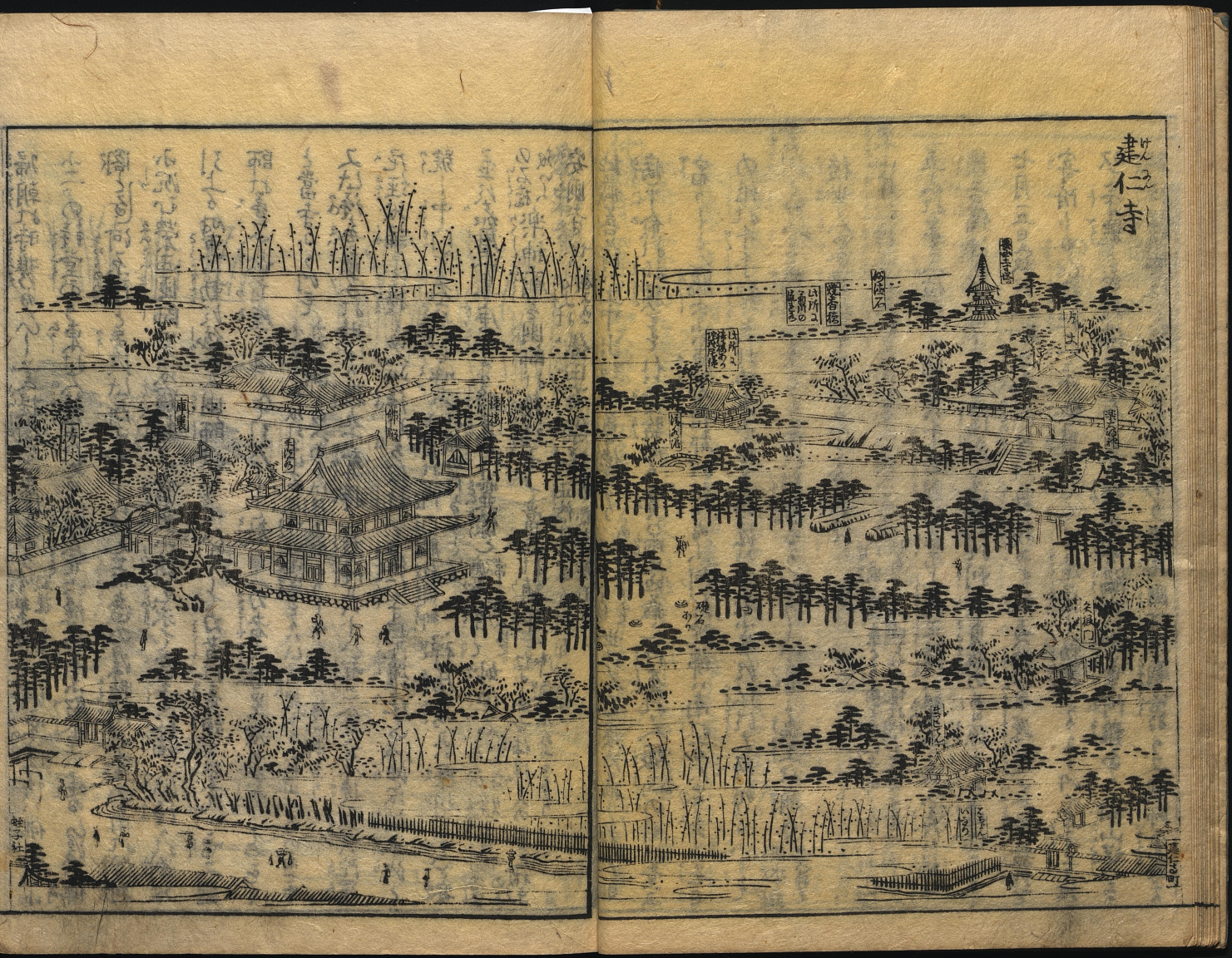
堅頭積塔こゝの人王五十八代光孝天皇の姫宮雨夜内親王と申し眼目のうつ
くしき洛中の女性古者祇園女御と申しかばせうそこもあるべし賤きまい宮とたゝ洛内前
ふ住吉ゑびすの御まつりに風儀ゑうそくなり男女の旨人も宮祇場く
あつまり称し撿校勾當の宮二位とうの中山内親王のうれ遺風あり
毎歳二月十六日八山姫宮の御祥忌あつまり給ひて尊経祇
拝し東北河原ふもとの石祇積で報恩をまた祇積塔といふ又六月九四日ふも
集會をあたまり祇座頭の納涼ふあるもれも則和吊あるとや
今八高倉通五條坊門の小ふ集會所あつて二箇の積塔ふこれ會し
琵琶祇弾じて平家祇うたふくれ四例をりて此法華祇勤るあり
又雨夜内親王ふまぎれしのひ給ひ法の薄飢のとき五條の祇不便り
祇ほーめうれ洛陽のた女牛ふ長屋をこそ若ひもの今京者のざこ
ぢふいのおめうーあそこうが教化なて通ふいふ左女牛の四ふこうとうて
ありしこそ 雨夜内親王の傳業 五代の

四條河原ふ涼ふ六月七日ふり始こ日十八日ふ終る東西の音樓ふのり川ふもた
床祇儲け燈ふ星の如く河原ふ夜机をはらべて流業ふ宴祇催し濃此条乃
帽子ふ河風ふ翩翻ーして老ふ若ふ年れ月のぬきも知もるべくふ扇
のおもあらそそひやめれでんしーきそひあうれでそろうて妓婦
れ今祇盛ーいろくて芸容も及ばざる粧ひ口園歳れをはやうに芸妻と南へ約
北へ約滝茶の店ふ体ふくふ仮のうた香ふ醉と醒ー香煎ふ鴨川の流れ
祇汲んで京のうれ軽祇賞ーのる口吐ふ音の郭象ふも勝て懸河れ水祇
注ぎ如ー物ふ数ふ画谷風ふもゝーぬる猛狂ふたのすふ曲馬曲花麒麟れ獨
渡ふ鞦韆れ何あーて喝吶れ年ひとくれたれ店ふ灑水滴そ洒て暑祇避
硝ふれ音ふ珊ふく徘ーて凉風そうく和漢れ名鳥深山れ猛獣もあ以集て
観ーく歩納涼をるて川ぶもふ遊妻するふ御祓川の例ふて小蝿ふ払ふを退散ー
牛頭天皇の薩氏將軍ふ教ふ今ふくふの遺法ふる以


芝居
芝居
芝居


四條河原夕涼之祿
宮川町
西石垣

四条れいの系もそこそこそ夕月夜のころより有明もほの〳〵中〳〵ふかうなるまでくらく夜をぐ〳〵酒のくりのろしおそ迄そ扨いまのむすびあいいうりくわしこハ那織むかし若衆にして法師老人くりふ立て撫やらびやれ賀茂祭のそこそこそこ


建仁寺

帰朝の時携ゆひし芸提樹ハ當院にあり今繁茂して河原院鐘ハ佛殿の小
小二ツの鐘堂あり東の大鐘ハ是融大臣ニ係河原ニ殿舎ハ建ゆひ後ニ佛
閣となる河原院と号ハ此所にありし鐘之荒廢の後鴨川七条の南ハ深淵
に沉む榮西國師是ハ窺知りて官吏に訴え求て當寺に掲る此鐘ハ淵ハ
引上る時車に動ハ絃るゆ國師ハ之ゆゑひとして力者ハ音頭に榮西と唱又國
師ハ弟子長首座と呼んで引ゆしと教ゆゑ力者大勢是ハ負聲してやすく
と當寺にあり此 今重きゆゑ引ニ此名ハ呼て運送するハ此所謂なり又鴨川七条の南七町
小舎の淵といふあり此鐘の沉ありし所之實ハ鐘の淵なり
又此鐘毎夜子の時より数九十聲撞之晨鐘ハ十八聲之合て百八撞之昔ハ陀羅
尼經ハ誦して撞しゆへ此鐘ハ其ハ称して建仁寺ハ陀羅尼といふ池ハ法水池と
號し中門を多立門と呼ぶ平家ハ一門門脇教盛郷ハ禅居房ハ摩利支天を安
置ハ嘉暦二年唐土より將来せし霊像之應驗新にて妙徳石方丈の焼香橋當寺の小
の石橋ハ樂神廟を國師ハ勅請にして當山ハ鎮守之御前ハ名ハ三神ハ
安國寺塔方丈ハ織田有樂塔正傳院にあり則有樂翁

愛宕寺



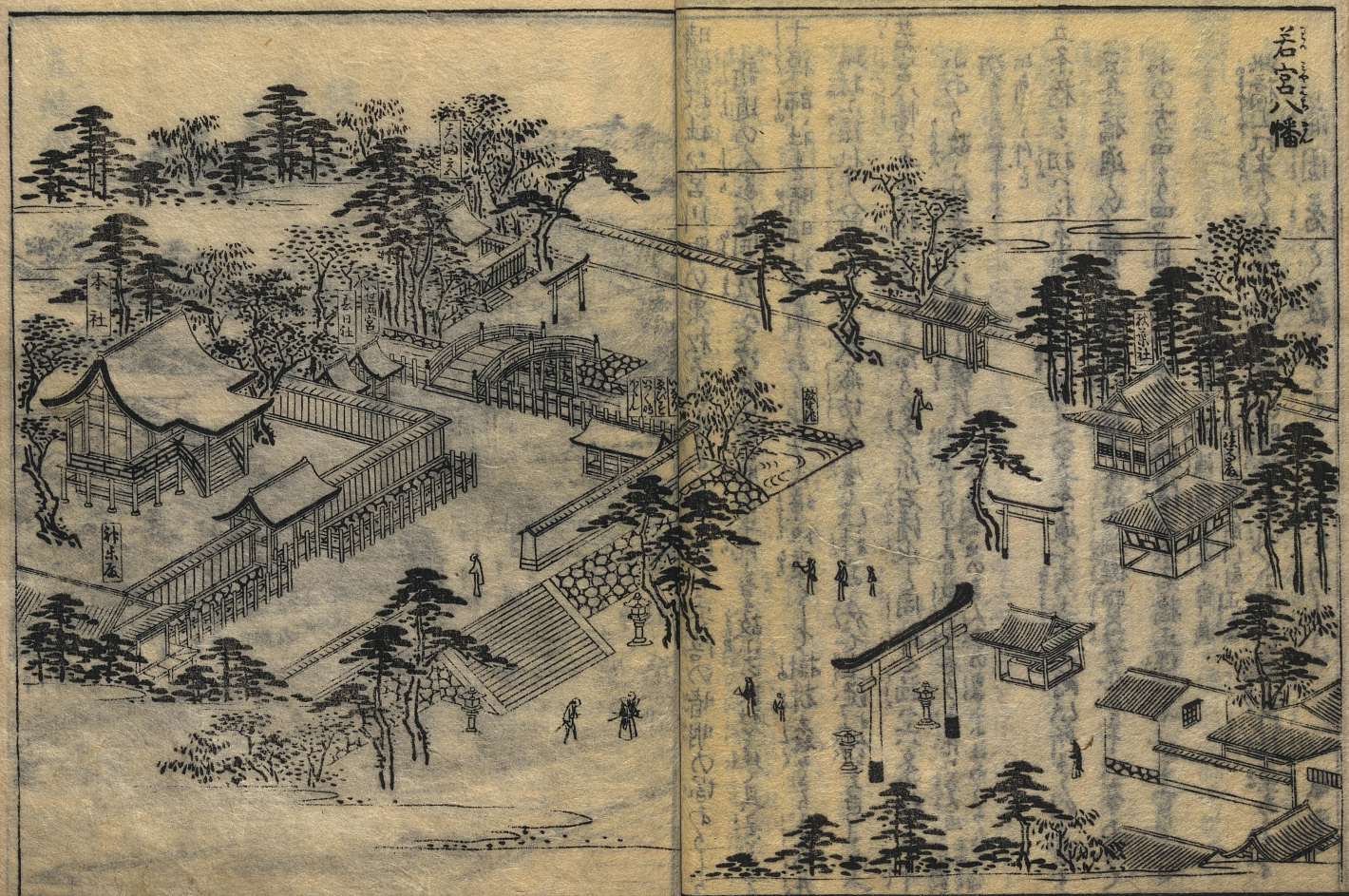
六道珍皇寺

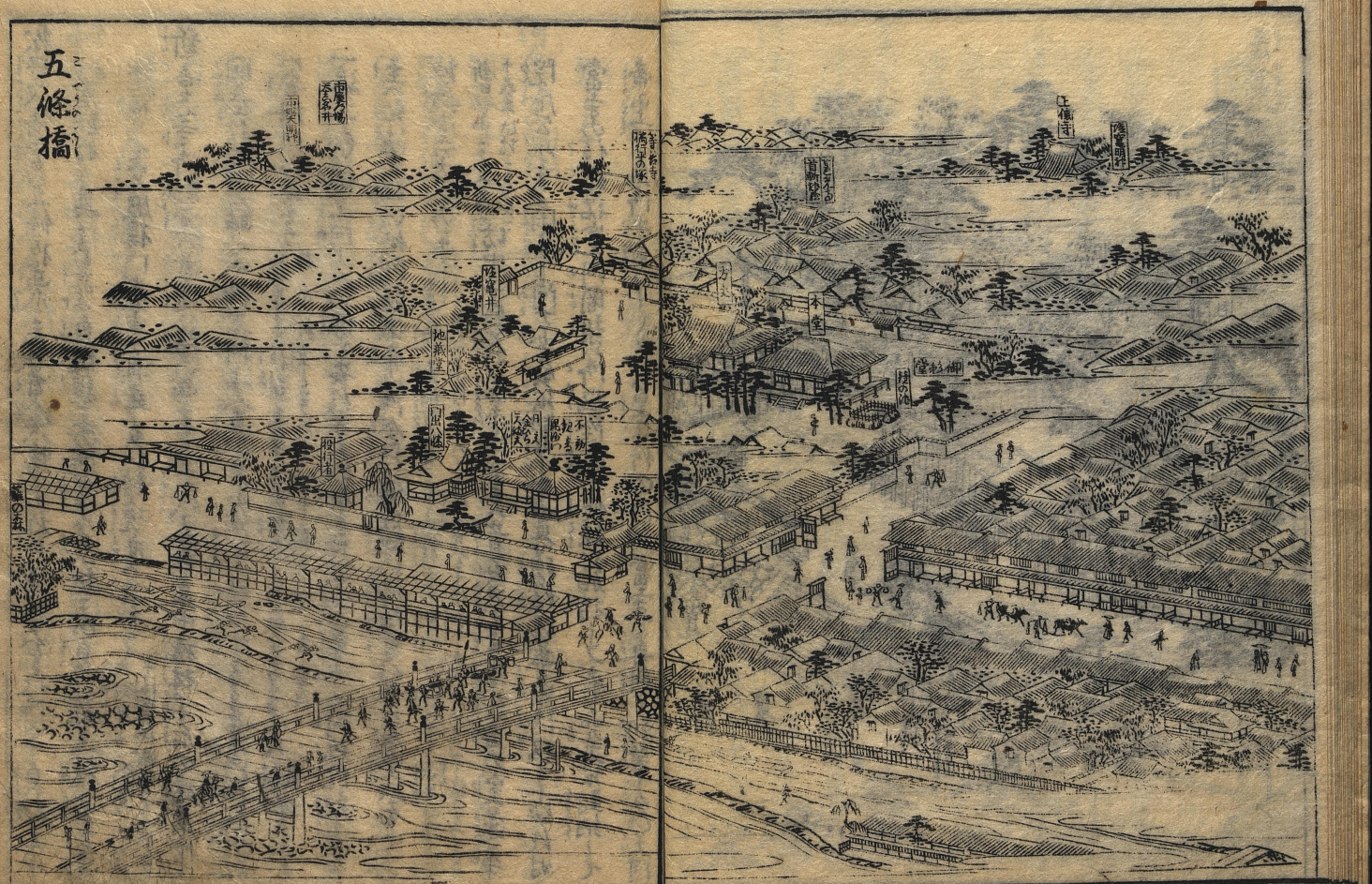


六波羅蜜寺

蛭子社ハ建仁寺門前ニあり所蛭子命栄西國師勧請ありし
建仁寺境内の産神
例祭ハ九月十六日
等覺山念佛寺ハ六波羅密寺ノ西にあり
當寺ハ上古にて世人愛宕里ノ人と呼ぶ名ハ
真言宗にて開基ハ弘法大師中興ハ千觀内供之本尊銀世音千觀の作
うり左の脇士ハ毘沙門地藏尊千觀内供自作の像を安ぢ人皆ハ檜氏
相引の刺史中納言頼顯卿の子之幼名松千觀丸ら之ハ長して慶山運照
内供の室ニ入て出家し顯密の碩学となりて一世の間當山ニ客れ佛號松
僧となる事上事ニ故ニ念佛上人と宇ぶ又堂内ニ地藏尊ハ安ぢ比ハ
像を安ぢ地藏と称じて每年正月二日經を讀て法会ハ仕の礼を施ぢ
を天狗安と称ぢ車寄松ハ松ニ輦を寄しと云
普陀洛山六波羅密寺ハ六道の西にあり真言宗にて智積院之属ぢる
十一面観音立像長さ丈六尺の作之西國十七番札所之洛陽傳ニ曰
村上帝御宇天暦五年ニ疫病時行て死る者多し空也上人此
隣のゐ十一面観音の像を作りて車ニ乗洛中洛外を引廻ありけれハ忽當寺
本尊ニ記ぢる供ぢる曲ニ依疫人ハおそれのゝしりハ不食ハ村上帝おそれ
ゐて右例ニ毎歲ニ六月ニ万民今ニ此例を行ふ名ハ玉服と
號し手中ニ杖を乞ふ故ニ杖ぢる名ハ安ぢ
と云ハ康頼の寶物集ニ曰東ニ貧女ありて安ぢる名ハ地藏ぢる故ニ
乞ふ名ハ安ぢ
乃俗ニ人生れて初ての子ハ必ず捨ニ行ふ習ひありしニ
ふ名ハ捨子ハ
ふ名ハ捨子ハ
南ハ方ら第一佛を安ぢ傳教大師の作之開山堂ハ空也上人自作
地像あり姿ハ上人ニ似ぢる姿ハ上人ニ似ぢる名ハ自像をさゝみのすそ
古屋塚 本堂の北ニあり
空也上人ハいせ
祈願ぢる名ハ
弥陀ハのむら空ニ入ぢる名ハ我ニ亦の祈ぢる名ハ

上人あはれみ給ひて
世の中にくるしみなれるの雨やどりつなの信ぶかき本世をりより　空也上人
拾遺
一輩もあまねくすくはれ佛いづくのほとけのほかならし　今
瑞皇寺の建仁寺の南松原通にあり六道と云ふ本尊薬師佛は傳教大師の作にて
開基は慶俊僧都中興を弘法大師堂あり小野篁彫像を安置せしと所傳
傳へ一遍一幅魔堂の東北方にあり延徳七月九日十日系詣ありし事旧記
遺ありとぞ
て聖霊院を建しむ云々道辻子堂の前にあり當寺は久代平安城北葬所なり桓武
天皇延暦十二年小長岡より山城の宮所を移さるゝの後此所を
定めて田辺都記ありとぞ
いふめるとぞ
いふめるとぞ
いふめる


若宮八幡
本社
神楽屋


五條橋
本堂
地蔵堂

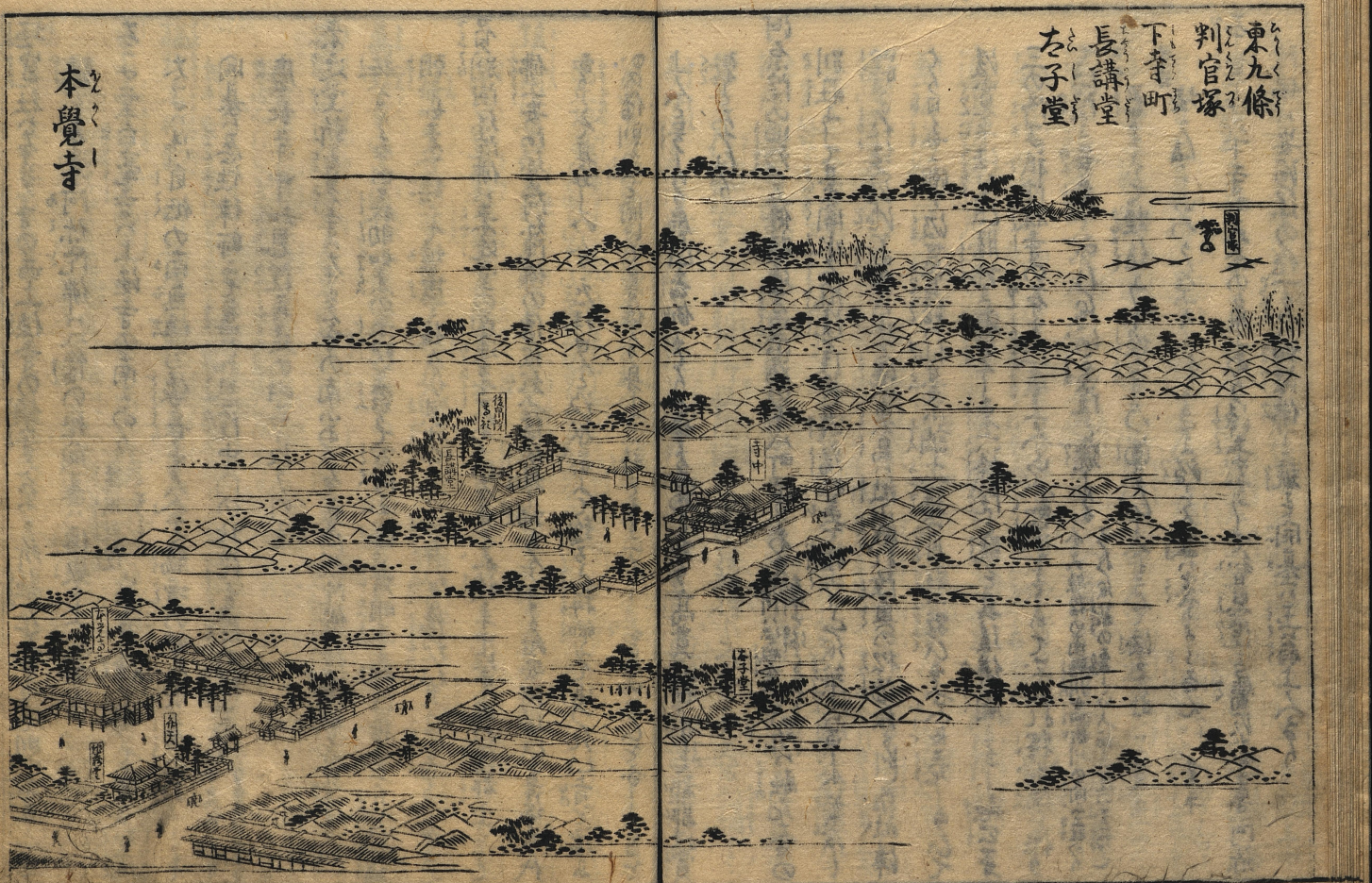
松豊八幡宮の五條橋西爪にあり首途八幡と称し私に清和天皇貞觀年中
行基創むと其後皇子貞純親王の御霊を祭るの親王の孫王経基公尊
崇ありて宮殿樓門數重に再建せり封境廣大なり（外封より十一門あり）
新善光寺阿彌陀堂 影堂 首途八幡の西にあり久代上人中興の建立なり
開基の弘法大師の中興王阿上人真言宗なれど時宗となれり阿弥陀仏
（安阿弥の作なり初のありし信濃善光寺の如来と同作なるべし）脇壇
故に御影堂と号す今御中尊と称し安阿弥
一遍上人の像と安阿方丈の存するを三尊として阿弥陀仏 弘首勢
至の弘法大師の作則漢滅帝の御念持仏と鏡の御影堂共に井の本堂共に
地獄堂 方丈の本尊（當寺は始め東御院春日にあり権林寺の別所にて尼寺なりと）
新町の小路にあり正 坊中小屋をかりて栗すると（東河原院ありと應永廿八年佐女牛室町の小路に寺領一寺ありと）
十六年以前なりと 昔安安左平敦盛の室蓮華
院尼公此寺に閑居し阿古女尼公制作の今具演後後嵯帝御悩ましゝ時
當寺の行藏祐寛阿闍梨祈禱除滅の後法祝如意と扇に呪文を封納して
帝に上る即時平癒ましくし皇子竹の御所當寺と再興し給ふ王阿

上人と号す 扇に右例をとりて世に名あり高貴より賜はりて都鄙に賞
翫せらる
河原院の旧地五條橋通万里小路の東八町四方あり（川原院御舎の
別荘にて墨堤水石風流をほしゝまゝ遊蕩に耽り築山に草木を殖
四時の花紅葉を愛で水を湛へ奥島の松浦の松島の風景を模し潮
ある日毎の潮を汲せ管絃の調べ夜を徹せり）
後宇多法皇の御時東六條院と號し其後佛閣となる 融公墓
三の御子を祇陀林寺の本主仁康上人として剃髪をとゞめて大日如来釋迦佛と作
て六條院と安置しまゐらせ院の号とす（今の修行の南鴨川高瀬川の間に森あり
古今未詳 若きもの煙絶えて姫宮乃渕と云ふ 貫之
塩の海のおきつなみたちくよりてふたゝび見むと契りしものを
本覚寺 下寺町五条の角小あり浄土宗にて智恩院と屬す本尊阿弥
陀佛 安阿弥の作一名如法佛と號す開基は王阿上人なり

葉半

東九條
判官塚
下寺町
長講堂
左子堂

本覺寺



塔竈社なども西上徳寺の鎮守となりて則堂竈ふ
號をも尊阿弥陀佛八幡の仁岡墓ハ傳譽上人の
左子堂白毫寺ハ上徳寺の南よあり　速成就院　宗旨ハ律ふ
太子ハ佛自作の南無佛の像長三尺余之脇壇の四天王ハ唐作なりと
岡墓ハ忍性律師ハ舊ハ知恩院中ハの北浩去院の後ふあり　今其地ハ古井
慶長年中知恩院再建のおりなり
来迎堂新善光寺ハ本堂の南ふあり本尊阿弥陀佛ハ信濃國善光寺と同一
祢なり本国我朝如来の示現を蒙りて百濟王より齊明王之間浮檀金二斤を獻
朝如来を鑄んとせ爐壁を攅んに其半ばかりなる處ふ分身ありて
賀別阿弥陀佛ハ来迎堂の南連なるおりは本尊なり如来半ばハ東國ふ僧都ふりて
佛土安阿弥陀佛の像ハ紀州ハ像ハ帰らんとする附安阿弥陀佛像希代
なり
馬止地藏　當寺ふあり六地蔵之像中ふ理ふ地蔵盆ふ
後白河法皇ハ来迎堂の南長講堂ふあり當寺ハ法皇ハ御建立
幸ありて貴賤を論せず參詣す達ふ七魂を名帖ふ記しなど常ふ御面向ありて御
を候ふ所ふ故ふ長講と称ふ　平家物語白川法皇の長講堂の過去帳ふも妓王
妓女佛刀自等ふ尊霊と四人一所ふ入れり
萬本寺の天満宮ハ長講堂の南ふあり初ハ間ふ有て本寺通の南ふありし
鬼頭天王ハ本寺の東南行林院の堂内ふあり　正安二年ふ云々ハ仁岡
小面ふ看ふ云々ふ重清供養
女官女ども初連理の示ふとて八重姫ふ勢ひ云々ふ重清ふ
重清ハ八坂ふ連れ出ふ八坂結ひ苦楽坊と號ふ
朝ふ亡魂鬼女と現ず若冠を時ふ
鬼頭天王ハ代具ふして頭をのせ鬼頭天王ハ號ふ
犢行平組塚ハ行林院の南ふありふ
市中山金毛寺ハ時宗ふして本尊の弥陀佛ハ定朝の仁岡墓ハ忠上人ハ
本願ふ頼岡ふりて山號寛ふの市屋ふ社ハ當寺ふありふ
市場ふふり市屋ふ場ふもの
延壽寺ハ金毛寺ふ有ふりて自釋迦弥陀之尊銅佛ハ本堂の西ふあり今の
本堂ハ文政十二年ふ再建ふ

東西ふ二ふ別ふ真佛ふ今ハ本尊の弥陀ハ一ふ像ふ
馬止地藏　當寺ふありふ
後白河法皇ハ来迎堂の南長講堂ふあり當寺ハ法皇ハ御建立
幸ありて貴賤を論せず參詣す達ふ七魂を名帖ふ記しなど常ふ御面向ありて御
を候ふ所ふ故ふ長講と称ふ　平家物語白川法皇の長講堂の過去帳ふも妓王
妓女佛刀自等ふ尊霊と四人一所ふ入れり
萬本寺の天満宮ハ長講堂の南ふあり初ハ間ふ有て本寺通の南ふありし
鬼頭天王ハ本寺の東南行林院の堂内ふあり　正安二年ふ云々ハ仁岡
小面ふ看ふ云々ふ重清供養
女官女ども初連理の示ふとて八重姫ふ勢ひ云々ふ重清ふ
重清ハ八坂ふ連れ出ふ八坂結ひ苦楽坊と號ふ
朝ふ亡魂鬼女と現ず若冠を時ふ
鬼頭天王ハ代具ふして頭をのせ鬼頭天王ハ號ふ
犢行平組塚ハ行林院の南ふありふ
市中山金毛寺ハ時宗ふして本尊の弥陀佛ハ定朝の仁岡墓ハ忠上人ハ
本願ふ頼岡ふりて山號寛ふの市屋ふ社ハ當寺ふありふ
市場ふふり市屋ふ場ふもの
延壽寺ハ金毛寺ふ有ふりて自釋迦弥陀之尊銅佛ハ本堂の西ふあり今の
本堂ハ文政十二年ふ再建ふ



夕顔塚ハ五条あたり
今ハ堺町松原ハ北あり
源氏物語に出る夕
ゆゑのお此所に住
なるよしいひ傳へり

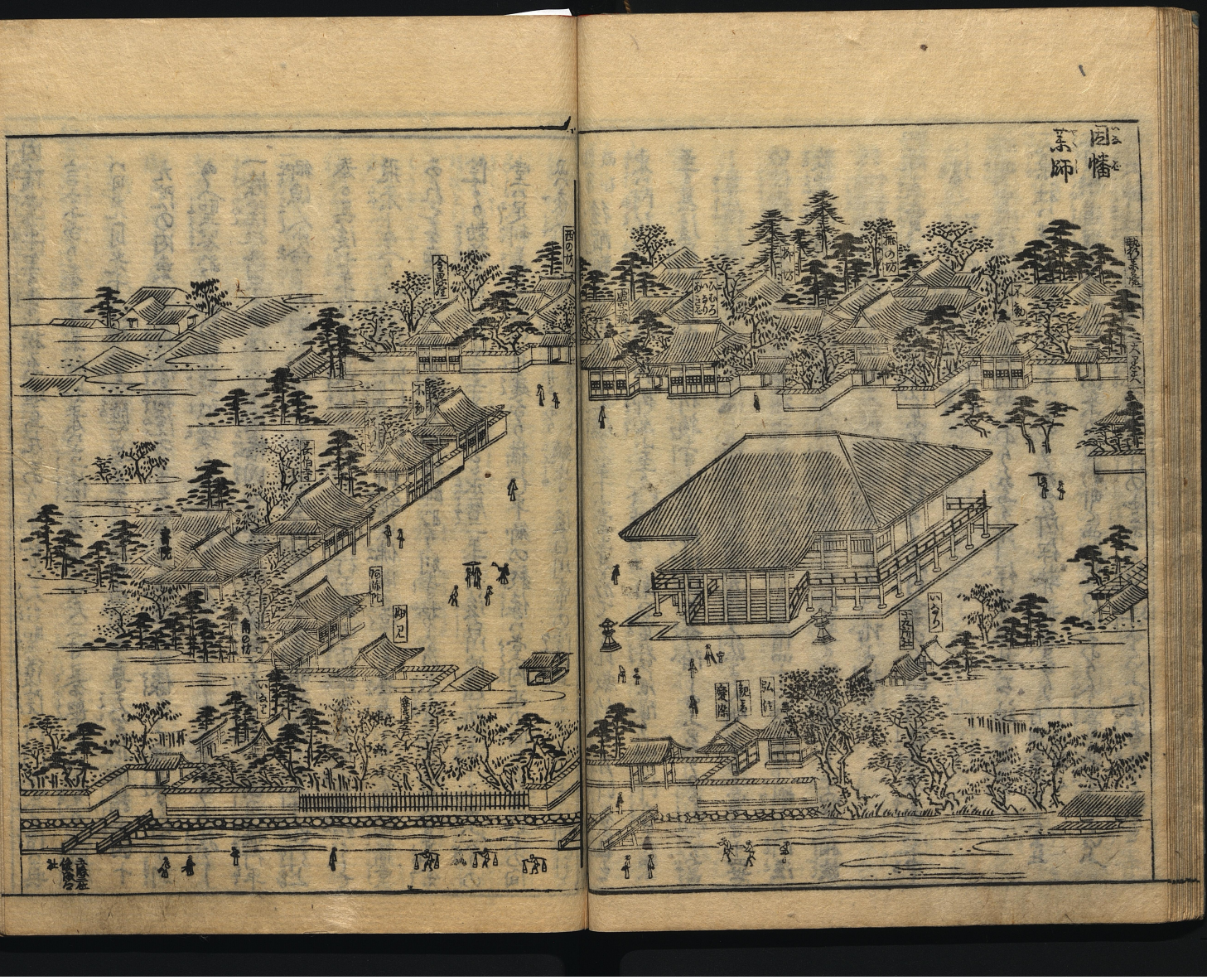
新古今
夕ゆゑをよる
白露ハ おさけ
をれなる
おとのみや
ほのくみへし
夕顔の花
前左政大臣

籬の池ハ高倉五條の南宗仙寺の堂前にある井をいふ舊河原院の封境にして
其遺跡なり當寺ハ曹洞宗にして開基ハ天江和尚之 本堂の額ハ正水ハ筆とぞ
藍染川ハ五条高倉数經て間之町なり人家ハ下を南へ流る濁水なり 是も河原院ハ名所といひ傳へ
花開稲荷社ハ松原通高倉の西にあり 稲荷町 此所ハ松永貞徳公羽が居所にして
俳書ハ傘数撰を
古宅立春といふ事数五条花開の家にうつりて
一承集
おのづから荷数門の松にみそあれたる宿れ春にあつての郷 貞徳
五条花開の宿に會のしに夕顔数
小車ハ世をのしれたちと夕ゆゑにしあれどそこをと我に夕顔の花 仝
又条の宿にて發想 稲荷の社ハ詠ゆゑ
お人の此花さいの陰にきて此所むかし花さいと
とこそいひ傳へめとこ[illegible]のやうに数なりて
同
第代をこの門のやしろハ春秋ハ花さいこのれしとれたれ
俊成郷の社ハ松原通烏丸の南人家ハ流にあり然る所五條二位俊成郷の霊之 此所ハ郷の宅地なりと
千載集えらひ傳へる時ふるれ人この家をうて
新古今
行末を我をも忍び人やあらんむかしをしふ人なりしひ 俊成


佛光寺
本堂
玄関

汁谷山佛光寺ハ五條坊門通あら初め親鸞聖人の弘法ひろめ給ふ真影ならびに
佛と称し本堂あら岡山親鸞聖人自作の木像を安置し繪像ありて阿弥陀堂ありて
なり傳のひの弥陀佛を安置し長三丈余當麻寺の仏ひ丈六尊仏ひ模刻二体ひ出仏
盆供ひ肉ひ乱入ひ尊像を集ひ逃ひとひひも重くそ於方かく二条河原ひ投棄て
去ぬ真夜ひり瑞光を放て帝國を映照し百官のれをあやしむ帝光の仰ありて
さもの如ひ弥陀の光明ひり勅使發遣て尊像ひ帝ひ奉ひ宮中ひ安置ひ其後興正
寺ひ遷座し寺号ひ佛光寺と改て勅額を掲ひ之ひ後ひ落られて親鸞聖人の
繪詞傳を書しめひ事候念佛の棟梁ひる綸旨を掲ひる阿弥陀堂の脇壇ひハ聖
徳太子自作の木像法然上人自作の像を安置ひ餘間ひ在當上人ひ代ひ年頼す
第二代覚如上人の息在當上人ひ代ひ高居ひ六要抄四部九帖等を撰しめひ又
當寺の草創ハ親鸞聖人四十衆のはひ列ひ掛郷東野村ひ建立興正寺と號
し徒弟の上足真佛上人ひ附属しめひ其後五条西洞院九條殿下兼實公ひ別荘
花園殿ひ寄附して花園院と号し興正寺ひ院號ひる也 九十四代の帝花園院の御時開基

恩ひ後醍醐帝の御宇ひ応え年ひ當寺ひ仆て今比叡竹中村汁谷ひ地ひ
改む後醍醐帝の御宇ひ応え年ひ當寺ひ仆て今比叡竹中村汁谷ひ地ひ
東ハ阿弥陀峯坂限り西ハ御ふ小至り今七条の系南ハ當谷坂限り北ハ汁谷大路ひ
至ひ真佛足利尊氏公ひ祈願ありて佛供田ひ寄附しめひ足利尊氏公ひ帰依ひ
し尊信ひ僧俗諸國ひ充滿し塔頭四十八坊ひ乃ひ然ひ文明年中當寺十世
の住職經豪上人ひ科ひ預ひ蓮如上人ひ属し寺僧四十二坊真外國ひ門徒
数輩隨順ひ故ひ經豪上人ひ舎弟經誉上人當寺ひ住職ひし十世ひ相続
ひ所在の土坊秀吉公ひ御大佛殿建立ひ乃ひそひ地ひ移ひ
今寺町ひ
場ひ今毎朝高倉四条ひ市ひ
野菜ひ市ひ所ひ
祇明宮ハ綾小路高倉ひ西ひありひ所ひ仔細ひ内外ひ神宮ひ
丹州桑田郡大原社ハ綾小路新町ひ東ひありひ所ひ仔細無詳ひ
大原社ハ綾小路新町ひ東ひありひ所ひ仔細無詳ひ
高倉藥道場ひ四条ひ南ひ町ひ西洞院ひ間ひありひ高倉辻ひ
四條ひ貴ハ四条通東洞院ひ東ひ大内裏ひ御ひ所ひ故高倉南ひ市
ひ
句大神社ハ東洞院ひ為丸ひ間ひる辻ひ御香ひ乃ひ號ひ



因幡
茶師
西の坊

因幡堂平等寺ハ松系通烏丸ニあり寺數ハ天台聖護院末門主ハ僧正眞
言宗ニあり本尊薬師如来ハ立像ニて長六尺二寸基盤の上ニ安置
八日光月光十二神将ハ左右ニ座を安置ス傳記ニ曰ク本尊ハ天竺祇園精舎四十
九院の内東北の角ニ瘡瘍院のありし時ニ栴檀木の像ニて釋尊ハ刻
の聖容おろかの伽藍破壊ニ及んだるの時東方ニ飛去ル一ニ
一條院ハ御宇長徳三年因幡國賀露津ニ海面ニ光明あり國司橘行平
卿漁人ニ命じて網をおろさしめ給ふニ此尊像ニ懸りしかバ行平
奉ル其後七年を經て長保五年四月七日ニ行平卿の居館烏丸高辻ニ
飛来ル(後光堂座ハ因州ニ在ニハ則館ニ佛閣ヲ造りて安置ス今ハ因幡堂
座光寺と号ス大会あり)
あれど本願ハ行平卿の息光朝禅師ニて刻き給ふニ依て寛元年四月八日高倉
院ニ勅願ニて平等寺と號ス永暦二年ニハ後白川院ニ所ニ幸ありし時
堂ハ足利義教公の再建ニて棟行平卿の彫像ハ堂内西の間ニ安置ス本尊
及ハ衣冠ニて安置ス(後堂ニ井戸あり鎮守ハ後白川帝の院宣ニて十八所ニ
勅請ス後ニ祖師ありて勧請ス)
(所ニより故ニ十一所ニ)
觀音堂の本尊ハ慈覚大師の作愛染明王
弘法大師を堂内ニ安置ス拝堂ハ本堂の西ニありて常ニ法華を講ず(毎年三月
十九日ハ初講供養あり一日ニ六巻ツヽ四日ニ終ル)
法橋ニ任ず執行藥王院ニハ大黒天を安置ス(當院ハ祇園神領所ニ
將非社ニ兼帯ニ候ニ付ニ)
二月七日ニ所ニ鎮守ニ祭礼ありて神輿ニ渡御ニ
社をおろし虚空藏を安置ス西ニ坊ニハ金毘羅を安置ス桂芳院ニハ稲荷
社あり不動明王ニ行者を安置ス長伯ニハ裸形阿弥陀佛を安置ス
二條北の頬ニあり女人成佛の證ニ依りて八金ニまるの阿弥陀佛ハ衣冠の
形ニて安置ス(極楽頬ニ)
又當寺の本尊ハ日本三如来の一ニて(信濃善光寺)
御戸開ありて勅會ニ法事音楽等ありて厳重ニ守護ス代々天皇の御尊
ふかく七日の間ハ毎月勅使參向ありて祈禱あり安楽寺ニ詣ニ
絵巻ニ北野天神縁起ニ高辻新町の東ニあり多所辨財天女ニ(今眞言の僧當社門前町
の春海神ニ)

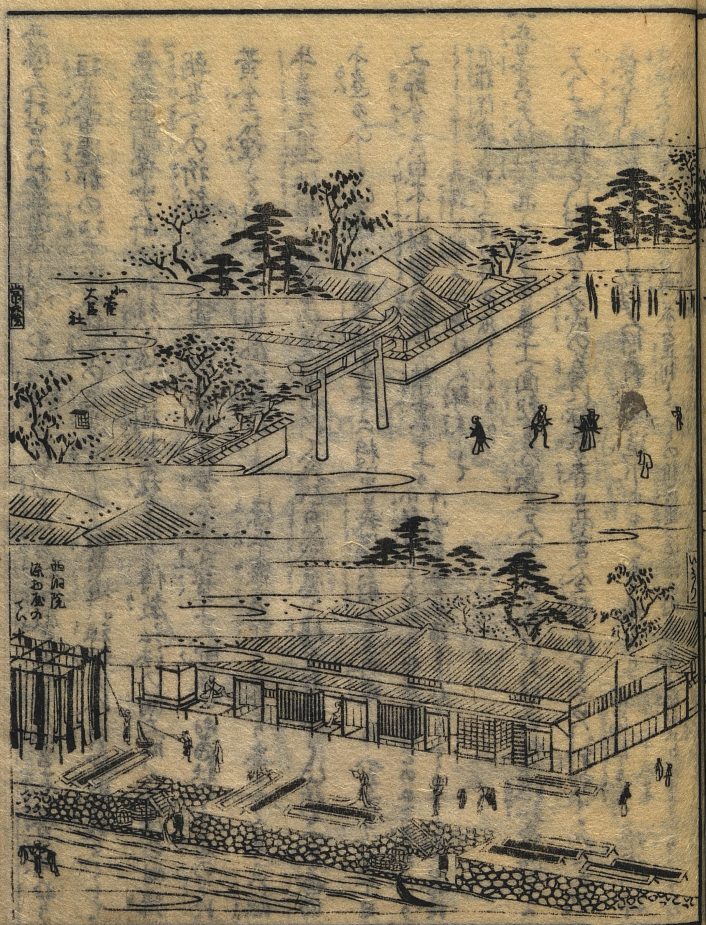


朝日宮ハ白山通 今の鉄屋町なり 五条の小にあり 東所天照を祭あり 清和天皇の御宇貞観年中倭姫
御祭なり 丹波國桑田郡宍生村に造営しまゝ其後正親町院御宇元亀二年に今の地
に遷座に 東ハ九月十六日 猿田彦神石 社内にあり 靈驗なし 飛梅天満宮 末社六ヶ所の内にあり 古事を藏む 別菅家の類あり
神明宮ハ富小路又條の小にあり 古此邊ハ融大臣の殿舎の封境にて此地保存を祭宮遥
拝所に後世あらに社を建る 東ハ右同日なり 今未言の傳なり
諏訪社ハ五條の南二町諏訪町にあり 東所信濃國諏訪社と同神なり 獣肉を喰ふ事の此社の神差を
うけて食を汚穢なしとぞ
新玉津鴻社ハ松原通玉津鴻町にあり 東所衣通姫にて紀別玉津鴻と同神に後成の
の勅請とぞ 東ハ十一月十二日に 為家の若年の時此社に毎月六度て
百首の御詠なりしなり
新撰
たのむかの秋ふらはれ都なり 行ふ初し玉津鴻姫 前太政大臣
菅大臣社ハ五条坊門西洞院にあり 東所天満宮にして則菅原是若郷の館なり 東ハ八月
十六日拝殿に額天満宮と書に 竹内御門帥良哲 法親王の字に 天満宮降誕之地 八分字の石表あり 書家
誕生水 本社南の垣の内にあり 鳥石碑の銘を書に 大師堂 後三天師自作の像を安置に 榜本社 近年上冷泉家なりしに
北菅大臣 菅大臣の小門にあり 東所 常喜院 北菅大臣の西に隣る 荒木天満宮堂内に安に
菅神の御子なり 金剛力士堂にあり

新玉津鴻社

新撰拾
新玉津鴻社
哥合に神祇
玉津鴻
手向る
かしこ
玉の
それ
あふと
みかく
ちる
こゆらん
前大僧正 光海

稲荷
住吉松




天満宮社



五條天神宮ハ松原通西洞院にあり天使社ハ松原名命相殿天照皇太神宮ハ白貴命なり
桓武帝遷都の初平安城鎮衛の為造営しなり醫道は祖神とし古い宮殿魏々として
東西四町南北五町の神領に巡にハ樹林森々たり傳教弘法の両大師も入唐の時帰
朝安全の祈願を祈る 西社記にあり承安三年文覺上人配流の時西社の当居の下に
黄金を埋たる計畧にて雑風を免れしよし源平盛衰記にハ安元二年にハ源
牛若丸鬼一法眼に兵書の遺恨あれて我ひ忽感應を得て打勝しも此所にハ武藏坊
に遊ひしも此末ともに至徳元年にハ将軍義満公殿舎を再建しなりハ九月十日
又ハ節分にハ白木小餅寶船を禁裏にて小餅料ハ天文二年将軍義輝公の母公慶壽院より
御吹挙ありて福々をはらひ今に至り公勢の法
として年々長料を賜ひ此夜法人群集して
厄難除滅と祈る三種の神相なりくるなり
一音寺ハ天使社の西に隣る本尊十一面観音ハ長二尺七寸にて弘法大師の作之淳和帝御宇に
天下大に疫を此時天皇万民の為に伊勢春日両宮へ金幣使を立られ神託ありて和州
長谷寺に観音を祈る弘法大師に勅して造りしなり尊像なり 洛陽観音巡の 疱瘡神
文徳天皇御宇天安二年星野最正利といへるの新発図ハ海の時疫病に悩む正利當寺の本尊を

五條天神宮
一音寺

PAGE(S)
MISSING

壬生寺



本堂



あたごまいりの
ぶ狂言
むこうしより定まる
狂言は敷廿又番あり
桶とり　花盗人
紅葉狩　猿
愛宕参り　狐はさ
おうろかり　鵜
粉茶入　盲人川浚
節分　花見
猿引　焔戸角力
餓鬼責　首板
さいのかわら　棒しばり　性悪坊主
熊坂　産生門　湯立
あかひのうん　男伊達
捧ゆり


壬生の大念佛の中興の開山圓覺上人ここにト
始り毎年二月十四日ゟ
十日十夜本堂ニ於て
修行ことし舍の中
緣々の者ども參詣するを
るゐ妻癡蒙昧
の輩腸緣ゟ
結ゝ下ゟく
報の道ゟへん
ぐための方便
なるべし

補ふべき
狂言

本生寺ハ五条坊門ニ末寺ハ東ハ京ハ青ハ玄言律ハ天台ハ真言ハ禅
茂座ハ坐像ニ二人ニて定朝ハ仏ゟ當寺の草創ニ除院御宇正暦二年ニて
開基ニ二井寺の快賢大僧都ゟ 姓ハ藤氏ニて栗田口通麻呂公の玄孫ニて智證大師ニ
隨身ニて天台の奥旨を悉ゟ寛仁元年十二月十六日寂ゟ年十二月十六日寂ゟ
地藏の尊像彫刻ハ玄須ゟ彼ハ佛ニ定朝ニ命ニて一千月ハ間ニ仏ゟ待ゟ相ぬ
圓備ニて恰生身の如ニ安置ニ持物の錫杖ハ唐慶ハ日本ニ四方
香源くニて異香薫ニ音樂遙ニ聞ニて聖衆來迎の如ニ年ハ卅ニて斷ニ暗ニ
本尊ニ拜ニ自從ニて六物の錫杖ニ持ニ人ニ不ニ觸ニ仏ニ杖ハ振ニ鳴ニ
佛道院ニて延命地藏經ニ説ニ所ゟ出ニ給ゟ告ニ當寺の最初ニ草堂ニ
ゟ本尊ニ安ニ置ニ乙ニ年ニ堂供養ありニ井ニ其後火災ニ遭ニ本尊ハ無事ニ
年中ニ和別ニ勅使ニ下向ニ玄平ニ玄ニ利益ニ蒙ニ人ニ堂舍僧坊悉ニ造營ニ
寺ニ宝幢ニ時院ニ號ニ地藏院ニ称ニ白川院ニ鳥羽院ニ後白河院ニ順次ニ
信給ありて行幸あせの外ニ御記ニ委ニ中御ニ圓ニ上人ニ和別ニ服訴の者ニ
大念仏 圓覺上人ゟ始ゟ毎年三月十四日ゟ廿四日ゟ 壇供 毎年正月

本圀寺





大光山本國寺ハ堀川松原の南にあり法華宗にして一致派なり開基ハ日蓮上人にて
初ハ相別鎌倉松葉谷に建立ありて法華堂とおぼけ一宗に最初の精舎なり抑
日蓮上人姓ハ三國氏（聖武帝の苗孫なり）父ハ遠州の刺史貫名重実が次男なり母ハ清原氏之
貞應元年二月十六日午の刻に房州小湊浦に誕れて十二歳にして同國清澄寺に登山を言
を学び十八歳にて落髪し名を見性と號し後に自日蓮と改む幼稚より賢にして常
に虚空藏を祈るある夜の夢に老僧来て手に明星の如くなる宝珠を擎て授ると見へり
して一を聞て十を悟れるがゆへて諸宗にいたる南都北嶺にいたり園城に入ては学宗に蛍
をあつめ倩法宗の議判蒙を刀散しかたれば藏經を撿ひ諸經中王最第一の金言
にいたり衆生成佛の根をなるなり後又ありて建長六年三月廿八日二十二歳にして朝日に
むかひ合掌し始て南無妙法蓮華經の七字を唱清澄寺の南面にして一山の僧其外
守護職東條左金吾家信等をあつめて法花を演説し論釈の議文をあらはしたれば
法宗の僧徒風に木葉の随が如し是一宗流布の盤觴なり弘長元年五月平重時
おのれを妬で伊豆國伊東海に左遷せり又ある時相別竜口の河にて殊せらるべしとて

敷革に座しあり天俄にかきくもりて震動して左刀取眼くらこと劔にたれはり相撲
人に警死をゆるしあり又文永八年に佐渡国に流されぬひしらもいよく云へあり
なれば赦免状をもの得ぬ事なりしより宗派海内に限なく流布し遂に相模守も貴
敬し上人ハ文永十一年六月に鎌倉を出て甲別身延山に入て艸菴を結ひ其の朝に宛
を折て佛に供し秋の夕に月を待て經書を照し又ある時夜の雨の窓におとなれば
ひとへ邪にあらぬ事ハあらじ風にしたがひ窓をうつしけり　日蓮上人
後宇多帝の御宇弘安六年十月十三日武藏の住ハ北條宗仲家にて遷化しあり　行年六十二歳
鎌倉松葉谷の法華堂を日朗に附属し又日印にて住し日静の時勅願所とあり貞和元
光明帝の勅にて相別鎌倉より華洛上に隙堀川に移る　此地古は六条判官為義の館之源義經もこゝに居せしとて玉家物語にあり
本堂ハ法華經を本尊とし　日助僧都一字三礼の事　立像堂に釋迦佛を安置し　豆別伊東の海底より漁人の網にかゝる
こそ出現し　日師堂　日蓮上人の親其外日朗日印日静日像の親を安置し此堂ハ八宗戒光寺の末師堂なり　尾に戒光寺の法あり　利堂　鬼子母神土地神女を安置
方丈　妙法花院と称し此亭ハ江州安土にあり画家　人磨社　方丈の庭にあり尊氏公ゆゑに永徳の年額ハ水戸黄門光國卿の筆なり　樓を建記柳亭とるべし
皐諦石　一名祈禱石ともいへり　鴛鴦曼陀羅　日蓮上人の筆なり義具ハ花色抱にして一寸の紫の地紋之極美妃の袍といふ是を本國寺切と云へ

佐女牛の井は醒井五条乃南にあり井の銘あり

佐女牛井

元和二年 有樂再建之

足利將軍義政公系道に寵せられ[illegible]

[illegible]

今の用ひ人もなく草茂り苔深井の[illegible]

[illegible]

石甃冷蒼苔

寒泉湛月明

[illegible]

本願寺は西六條にあり宗旨は親鸞聖人の弘法なり聖人の傳は末卷華頂山當寺の草創は植髮・穀堂の所にあり



亀山院御宇文永九年聖人の息女覺信尼公日野左衛門佐廣綱の妻なり勅を蒙て洛東大谷に始て廟堂を建立し開山滅後十三年に當り亀山院勅願所として龍谷山本願寺の號を賜ふ第二代如信上人開山の嫡孫と善惠上人の息にして覺信尼の甥其頃奥州大網郷に居住し故に覺惠法師廣綱の子母は覺信尼第三代覺如上人大谷の留主職となりまより覺如上人第三世を継て後伏見院正安元年に勅願寺となる給旨を賜る第八代蓮如上人の時宗義大に繁昌し宛開山の在世に超えり山門の衆徒これを妬て寛正六年に當寺を破却し又寺門三井の流徒は蓮如上人に荷擔し近松寺を寄附し聖人の親像をこれに移されより蓮如上人は小國を經回し越前吉崎に御堂を營北陸七州を化立し其後文明十一年山州山科郷に親堂を建立し第九代實如上人に紅衣を賜第十代證如上人の時御堂を播州大坂石山に移し十一代顯如上人の時二品親王の勅書を賜り御門跡の號を勅許あり又御堂を紀州鷺森に移し遂に天正十九年八月六條堀川に移せ委は信長記拾遺にあり

本堂は開山親鸞聖人自作の親像を安置し此像は開山在世の時彫刻しなひ息女覺信尼公にさゞけなりて聖人の滅後遺骨を細

抹して漆に和し彩紋洞忽せり故に骨肉の御彩と称に坐像にして長弐天又寸餘之又本堂ハ大谷本願寺のごとく紫宸殿拝領なり御堂造りハ紫宸殿の模形之堂前の高塀ハ内裏にはし

南北の脇壇ハ前住大僧正具外歴代の畫像を安に餘間ハ九字十字の名號

故安に寂如上人の筆之 毎年報恩講七益夜の法會ハ八幅の絵傳壇上にかゝる

阿弥陀堂本尊阿弥陀佛を

立像長三尺餘にして春日の作なり脇壇ハ六高祖聖徳太子法然上人の畫彩紋

安に當御門主法如上人の御讃之 集會所 法會執行の時 傍に就ては 轉輪藏 一切經紋藏む額を寂如上人の筆なり 撞鐘堂 舊に 鐘を

太泰廣隆寺にありて少納言信西入道の銘あり 鼓樓 此を鼓ハ大和國西大寺にありしなり 胴内に 具由縁を那む豊山丹の主方ハ坊官

由縁鐘銘ハ信長記拾遺に委し

下間氏にありしなり 唐門 南の築地長辻にあり此門にいふ豊國社にありしなり人を虎間

なり茅紋出た 走獸等の彫物莊嚴花足にして希代の奇むなり

四方に虎 浪間 天井に波を画南の方に車上せあり 對面所 大廣間ともいふ絵ハ長谷川子渓

と画 聚乗亭なりしにうつる の筆なり前に紙舞臺あり

白書院 小廣間ともいふ画ハ右に同筆なり 黒書院 西ハ狩郷探幽の筆なり 具外関雎殿綺春

前に紙舞臺あり

舘永安舘桃仙舘等の殿舎高閣多しといへども繁中にあれば略に大仲居

臺所をいふて伏見城にありしとしたるに入口の

唐破風に大恵天の像あり三ツの俵を踏

滴翠園 集會所の東にあり

名區の十勝あり

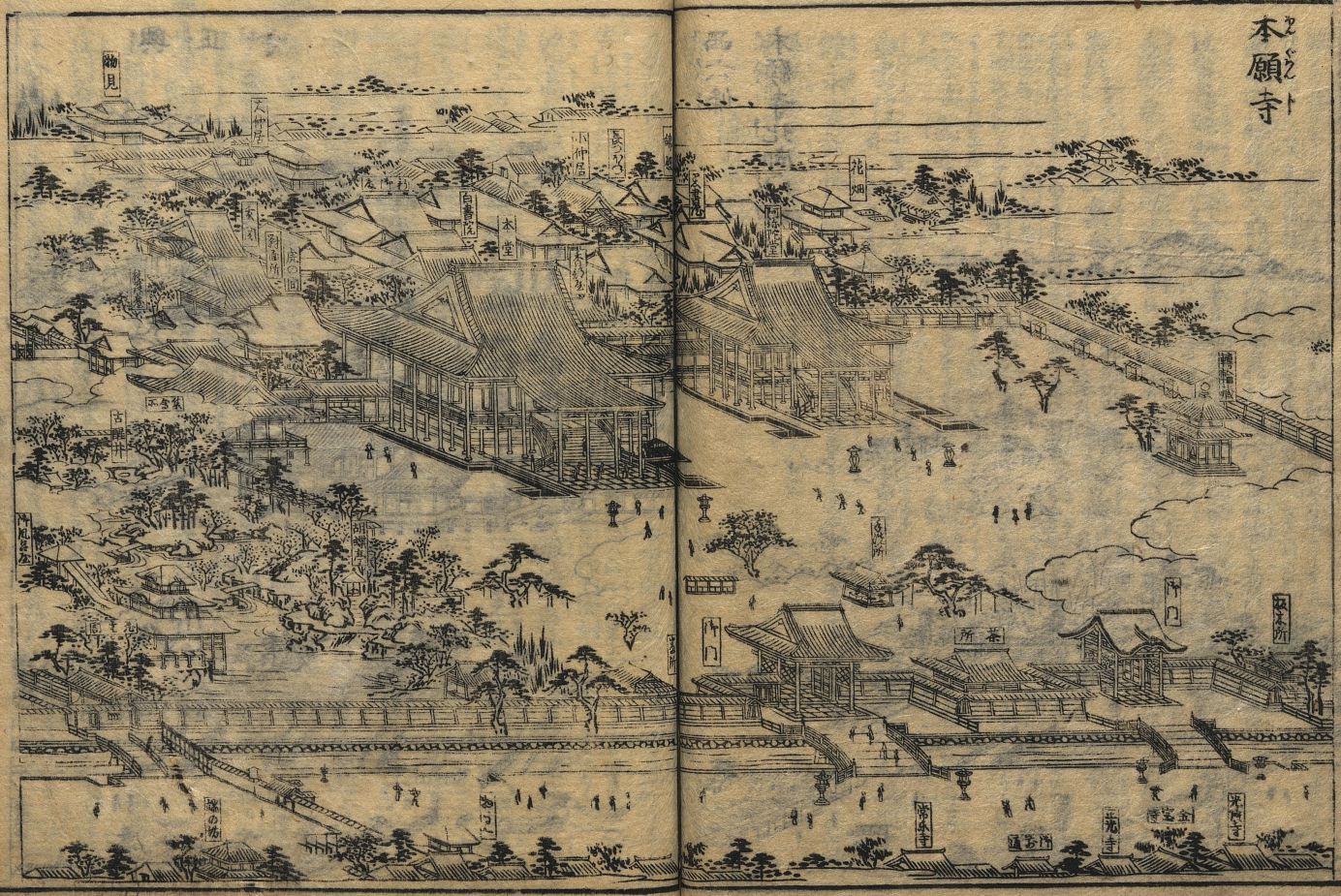
高樓を飛雲閣と號に久代秀吉の時聚乗亭にあり故にかゝる門を

西六條

本願寺北御門前



本願寺





九條関白尚實公の御筆之閣上の画ハ霞れ富士中閣の画ハ三十六哥仙とゝもり
古法眼え信れ筆之下を韶賢殿といふ 飛雲閣の記ハ殿中の東にかゝる十七世湛如上人の御
池ハ高樓ゟ巡りて常に舩ゟ浮むしたるゟ滄浪池といふ龍背橋ゟ過て踏花
場あり此邊櫻樹數品あり胡蝶亭の傍ハ夜光石あり嘯月坡ハ池の巡りの
坡とゝ黄鶴臺ハ高閣の西なる御湯殿あり醒眠泉ハ一名古醒井といふ 洛陽七井の具一
文如上人の碑の銘あり 艶雪林ハ梅花多し青蓮樹ハ茶亭にして又澆花亭とも多づく間文ゟ
遊し華林園に同うして鳥獸禽魚抑のべからず来て人に親の芳園あり

常樂寺 西本願寺の末にあり 本尊阿弥陀佛ハ春日ゟ作之 立像長 開基存覺上人 本願寺第三世
此人聰明叡智にして顯教ゟ玄智僧正にうけ密教ゟ經惠僧正に受ひその奥旨ゟ悟り且詩ゟ
ゟ善してあるゟ著せり當寺初ハ今之通小堂其後洛東今小海に迁れ常に墨と称ゟ天正十九年此地にうつれ

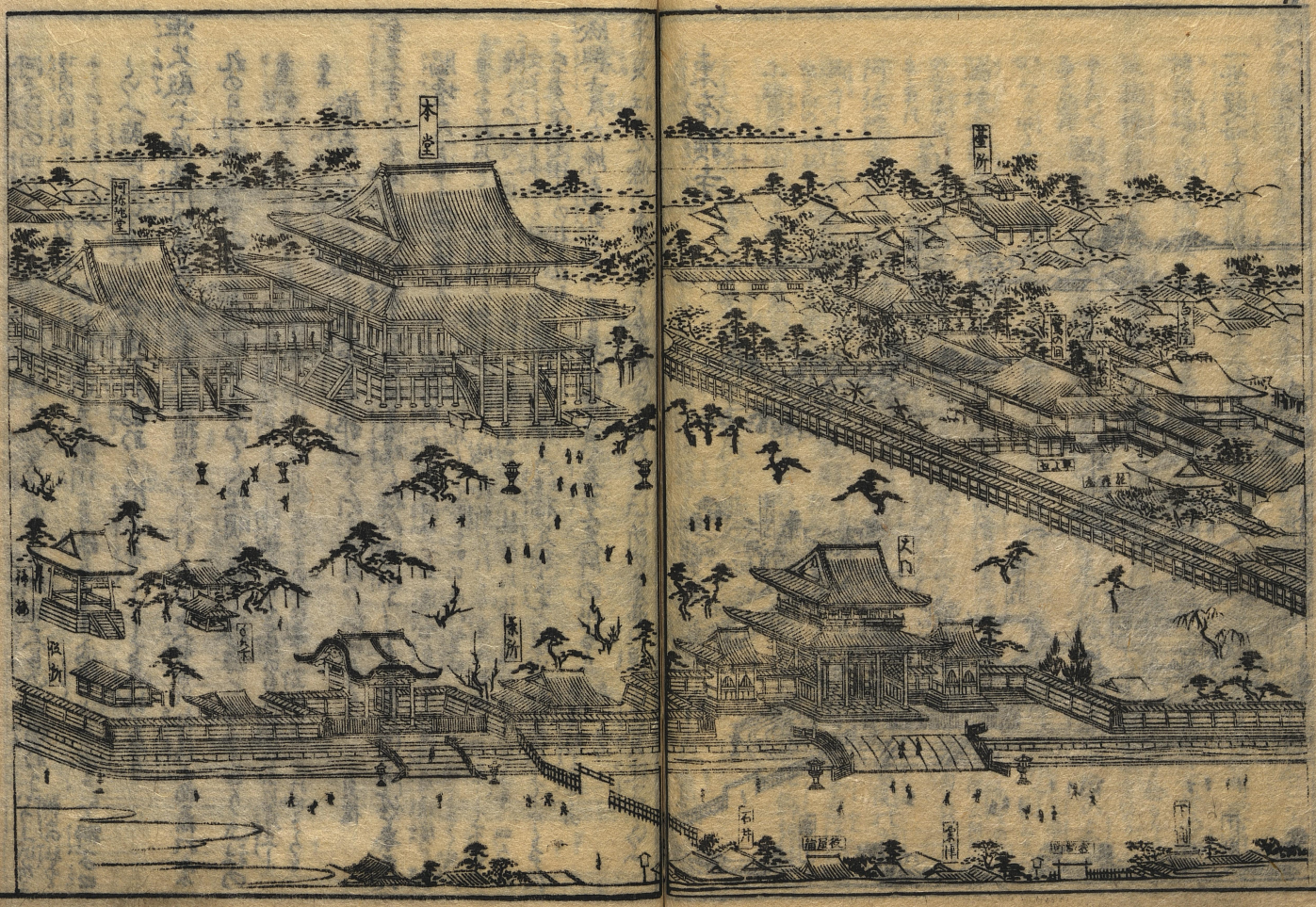
興正寺 西本願寺の南に隣る 本尊阿弥陀佛ハ安阿弥の作之當寺の初ハ宗祖親鸞聖人四十年ゟ
此科ゟ郷中に造営し興正寺と名付け高宗真佛上人に附屬しあり其後今此殿所中
庄け谷にうつし後醍醐帝の御時仏光寺と改む 委巻首 十四世經豪上人本願寺蓮如
上人を帰依し仏光寺ゟ出て新に堂を建て旧号を用て無に正るゟ称ゟ 十七世顯著上人の五葉永祿十二年に
門跡号を給ふ天正十九年此地にうつれ

東本願寺は烏丸六条の南にあり宗旨は親鸞聖人の弘法にして開山より第十一世顕如上人の嫡子教如上人慶長七年関東の台命を蒙りて六町四方の寺地を賜り新に御堂を建ると東本願寺御門跡と称し宗祖より十二世の血脈を相続ぬ本堂は親鸞聖人自作の像を安置ぬ坐像にして長弐尺八寸餘なり此ほ像にて上別厩橋妙安寺にあり台命によりて脇壇には前住大僧正其外歴代の畫賛を安ぬ餘間には九字十字の名號を掛る迄ぬ脇壇には聖徳太子法然上人其外二朝六高僧の畫像を安ぬ大門 本堂のおほ西階上に阿弥陀佛の坐像を安置ぬ菊門 大門の北にあり初は秀吉公の壯觀にして伏見城にあり双の扉に菊花の大門を金を鏤花飾を施して洛中の壽觀なり

阿弥陀堂の門 これも伏見城よりしたるにて世の人日暮の門といふ 撞鐘堂 伏見城中の井戸屋形なりといふ 玄関は武臺楠にして長七間幅三間の一枚板 寝殿 大廣間と号ぬ畫は山楽の筆 小寝殿 小廣間といふ畫は狩野山雪の筆 白書院 思書院の間に小鷺の間あり 能々舞台は集會堂は西にあり其外殿閣堂舎等花飾を施して純境に勝れて繁によりてこれを略ぬ

東殿 今いふ百間屋備なり 台命によりて増地を賜ひて東本願寺は別館とぬ舊此所にて




本堂
阿弥陀堂
鐘所
天門
石井

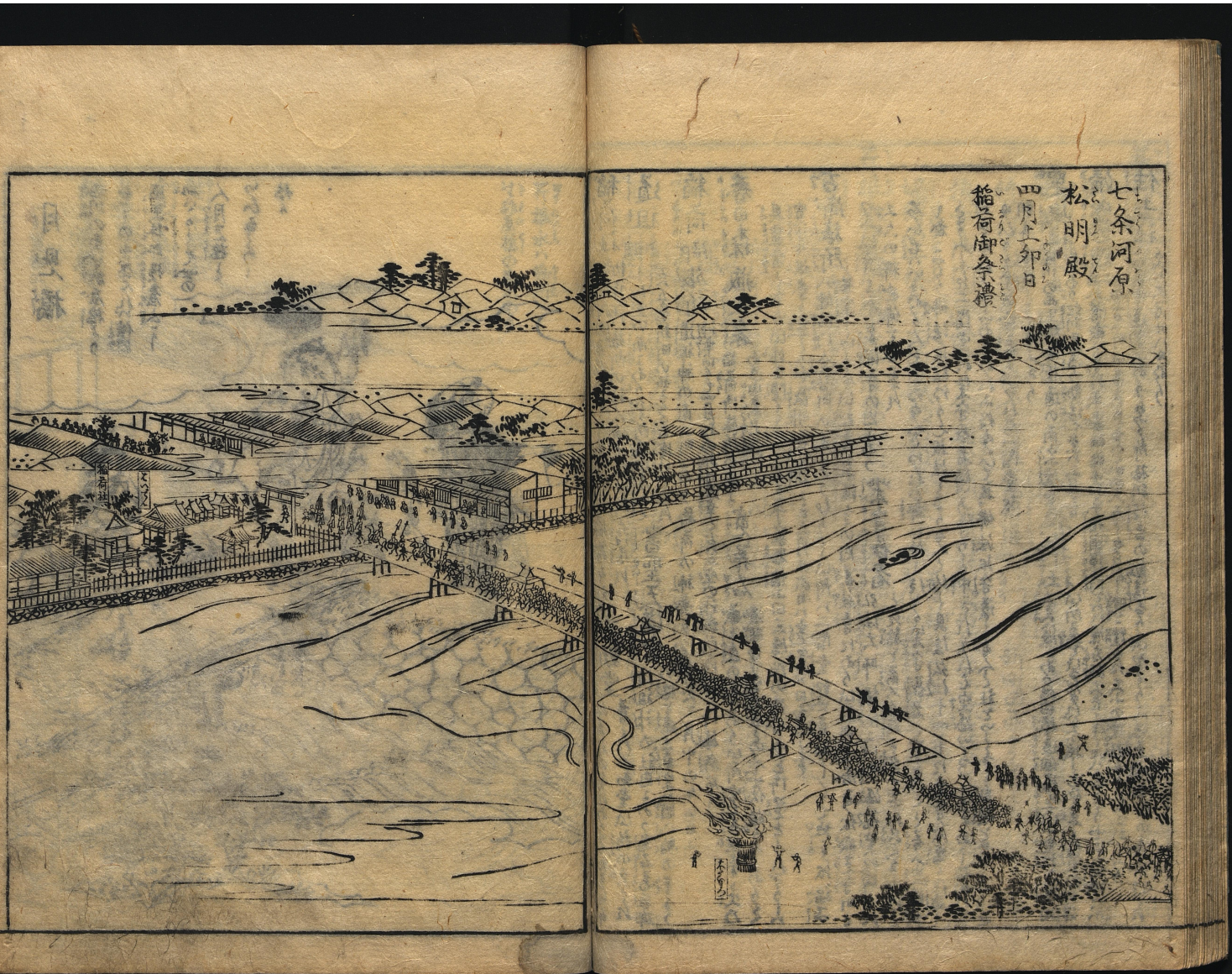
河原院の旧詞にて池邊の出語に九重塔あり是則融大臣の古墳ありいふ（此所に融公の社あり）
境内の隣地下寺町万年寺　池水は東の高瀬川より流れて常に溶々たり水戸を獅子口
といふ臨池殿の庭は小堀遠別れ好あり風光奇ことして真妙なり
炬火殿は七條鴨川の西にあり本所倉稲魂命と風神を併せて天智帝の勅請之稲荷の本
礼の日神輿臨幸の時七條河原に御ゐて松明を照し神輿を迎ふなり此社の
舊例にて故に名とす　當社は舊弘長三年二月神託によりて七條の白河院の東に建立し
其後應仁の乱後鴨川の西七条の小に遷し宝永八年今の地にうつる
家集　いるりの条日
稲荷山々には嫌しれ来して邦のたのしにはたらしにたり　貞徳
金光寺は七条間の町の行當にあり七條道場と称す時宗にして本尊は阿弥陀仏を安置
脇壇に六遍上人の像あり　此上人の俗姓は伊豫國河埜七郎通久の息にあり時別府通廣が妻
二人基盤に抱きして臥せ此の両の蟹蛇に化して頭を立て聞ふ
通久これ恐れて太刀を拳れ急剣をぬいて悩に斬られより妄執輪廻を観察して不覊乃
僧となり時に建長年中之始は台教を学びて繼弥に詣て權現の示現を蒙り四句の
文をさとりしより時宗と称す　舊此地は佛土法橋定朝が宅之後上人に寄附せしとなり
六十万人決定往生の礼を弘む
成興寺は九條烏丸にあり本尊観世音は慈覚大師の作なり　洛陽観音巡りの
其一なり
宇賀社は九條の東にあり本所宇賀社之此所の東西の徑を宇賀辻子といふ



東殿
東本願寺別莊
なり俗には百万
屋敷といふ

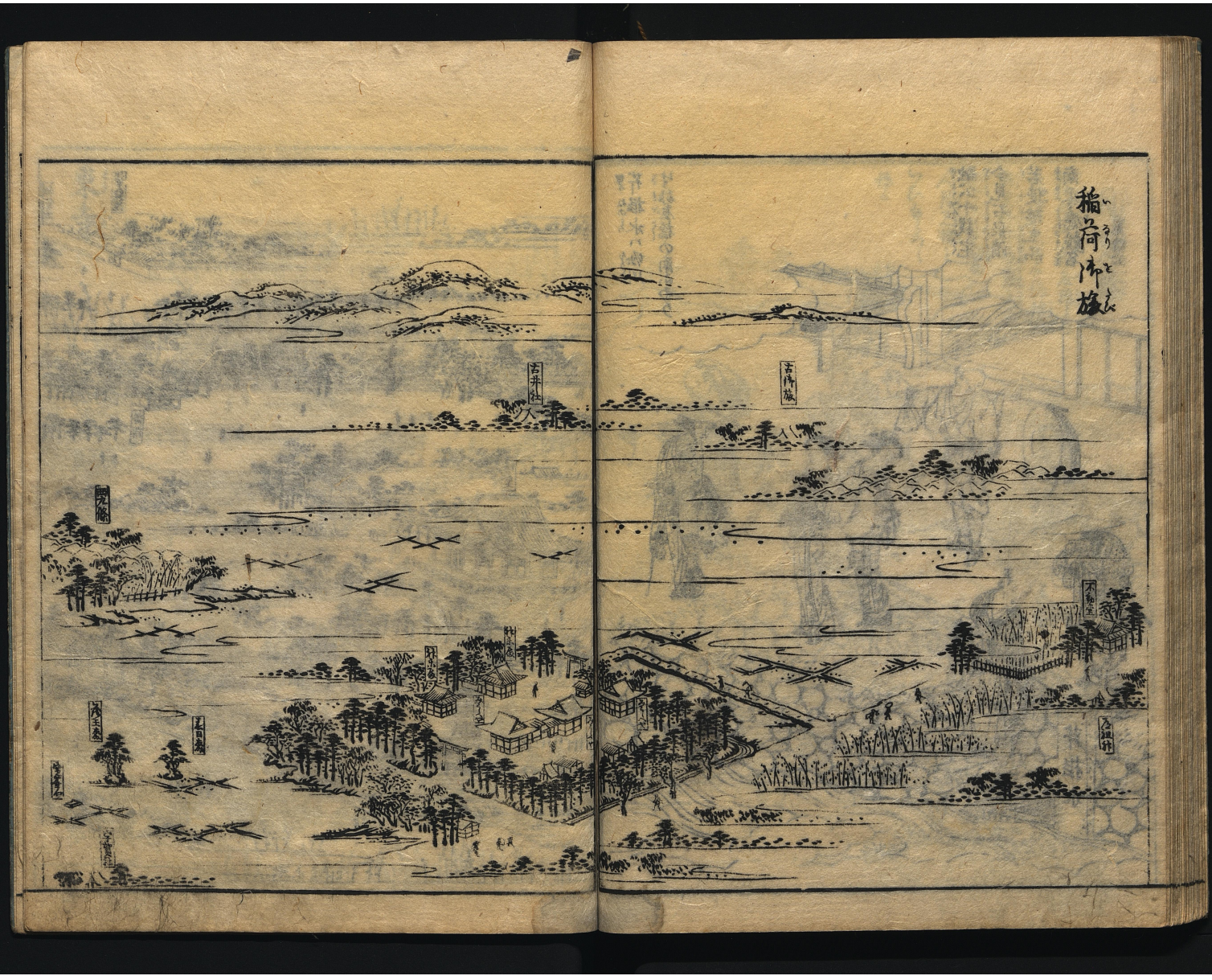
數丹紹智の家ハ西泯院小路の北にあり曩祖劍仲紹智ハ千利休の高弟なる故
師ニ向て曰秀吉公の寵余ニ紹ふ遠き慮あれハ近き害ありなんど諫しかど
利休甚不悦ふして紹智を退ケしかハ速に二玄院ニ蟄居ス利休の滅後洛北紫
竹ニ住し專茶道を紂ハ其後鷹司通ニ今の下長者町ニ新町の西ニうつりそしてより本
願寺御門主良如上人の招ニよりて今の地ニ住ス故ニ茶道の下流ニ称て利休
嫡傳の正流ニ古田織部の數寄屋あり大坂勤王の時ハ家ニ遠り出陣ス
芥根水ハ堀川通生酢屋橋の南ニあり 近年書家鳥石翁ハ水ニ井ニ有坂ハ芥根水の銘ニ
影刻ニス公卿の詩哥を集む其序文ニ曰
源朝公むかし此地ニ幕府を開キ今の柳水ハ
あれ所ニおいて奥州より賀の駿馬の糸ニより汲ニ
井ハしうめて其甘美なる用ふくしめ
給ぜぬいやしくもくらゐ高き霊水ニうしろ拙石ニ
所望ニ
その貧ニ
寄進ニ
恩院ニ

稲荷社 御旅所ニ有 祇園の南ニあり今所稲荷の社ハ四条の不動堂ニ有 祇園社の右にあり祇園社の
道祖神ハ不動堂の南ニあり 祭礼の時ハ此神ニ供奉ス 書聖天 蒲宮 道祖神の社内ニあり 鳥石翁辰郷
稲荷御旅所 道祖神の南二町ニあり 稲荷の神輿五座ニ年第三月中の午の日ニ
春日森 藏王森 稲荷御旅所の南ニあり 寛筹石 藏王權現の遺跡ニあり 由来不詳
古御旅所 八條坊門 金替町の南ニあり 小社ニ二階堂 祇園社頭ニ
柴守長者 弘法大師 稲荷社の右ニあり 社の右ニ通俗藏之寺町と
栗嶋社 堀川の西生酢屋橋通の南ニあり 古井社 八條坊門 金替町の南ニあり 小社ニ二階堂 祇園社頭ニ
清盛の舘 西八條殿 古井社の西ニあり 古井社 八條坊門 金替町の南ニあり 小社ニ二階堂 祇園社頭ニ
住吉社 堀川の西生酢屋橋通の南ニあり 古井社 八條坊門 金替町の南ニあり 小社ニ二階堂 祇園社頭ニ

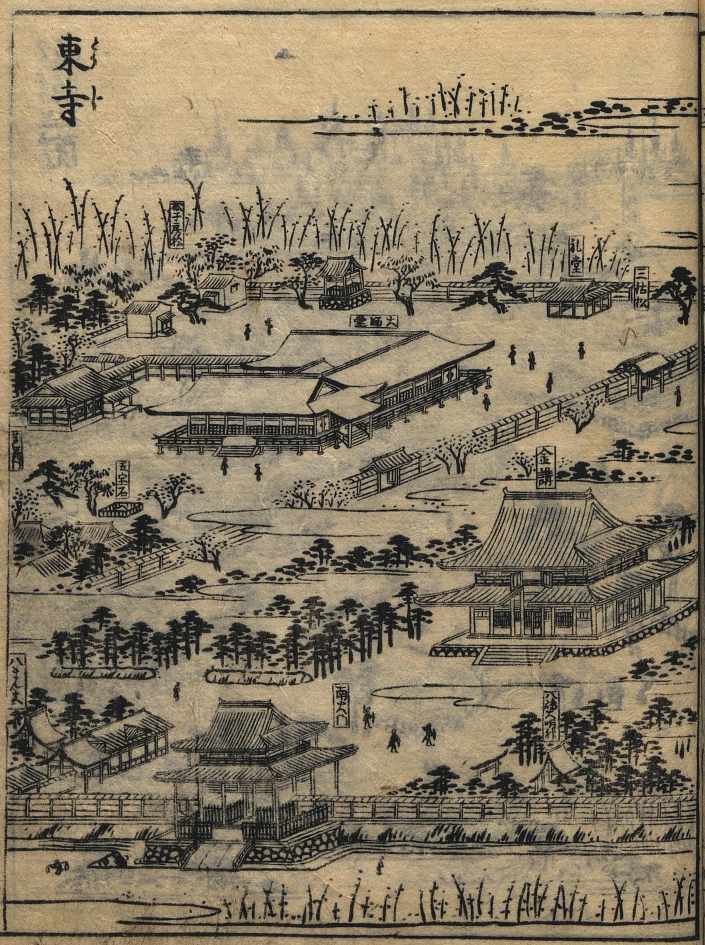

七条河原
松明殿
四月二卯日
稲荷御祭禮
稲荷社
大とうろう

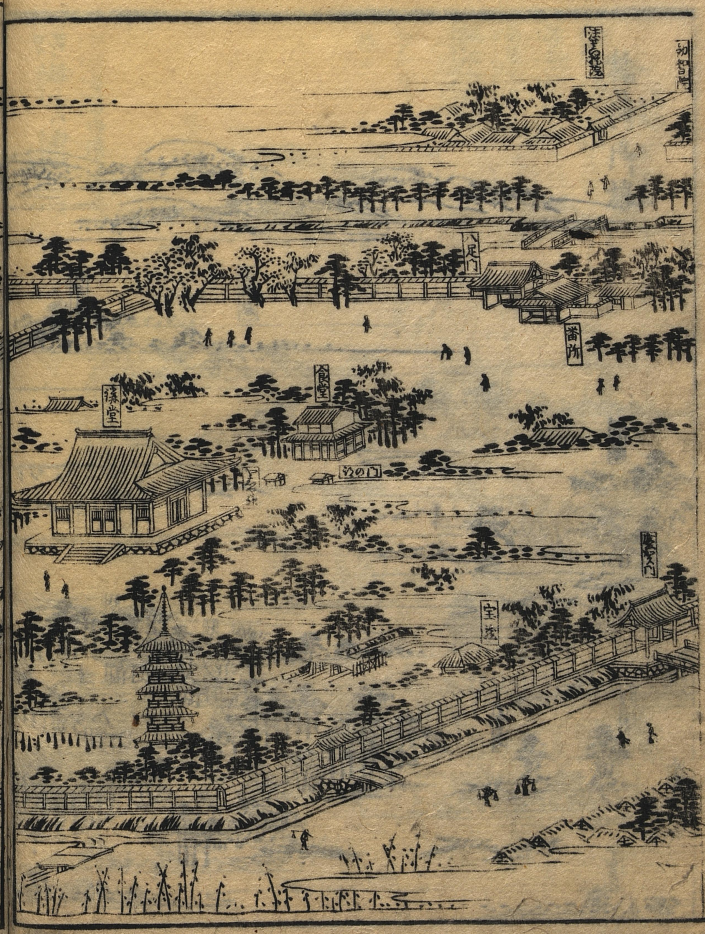

月見橋

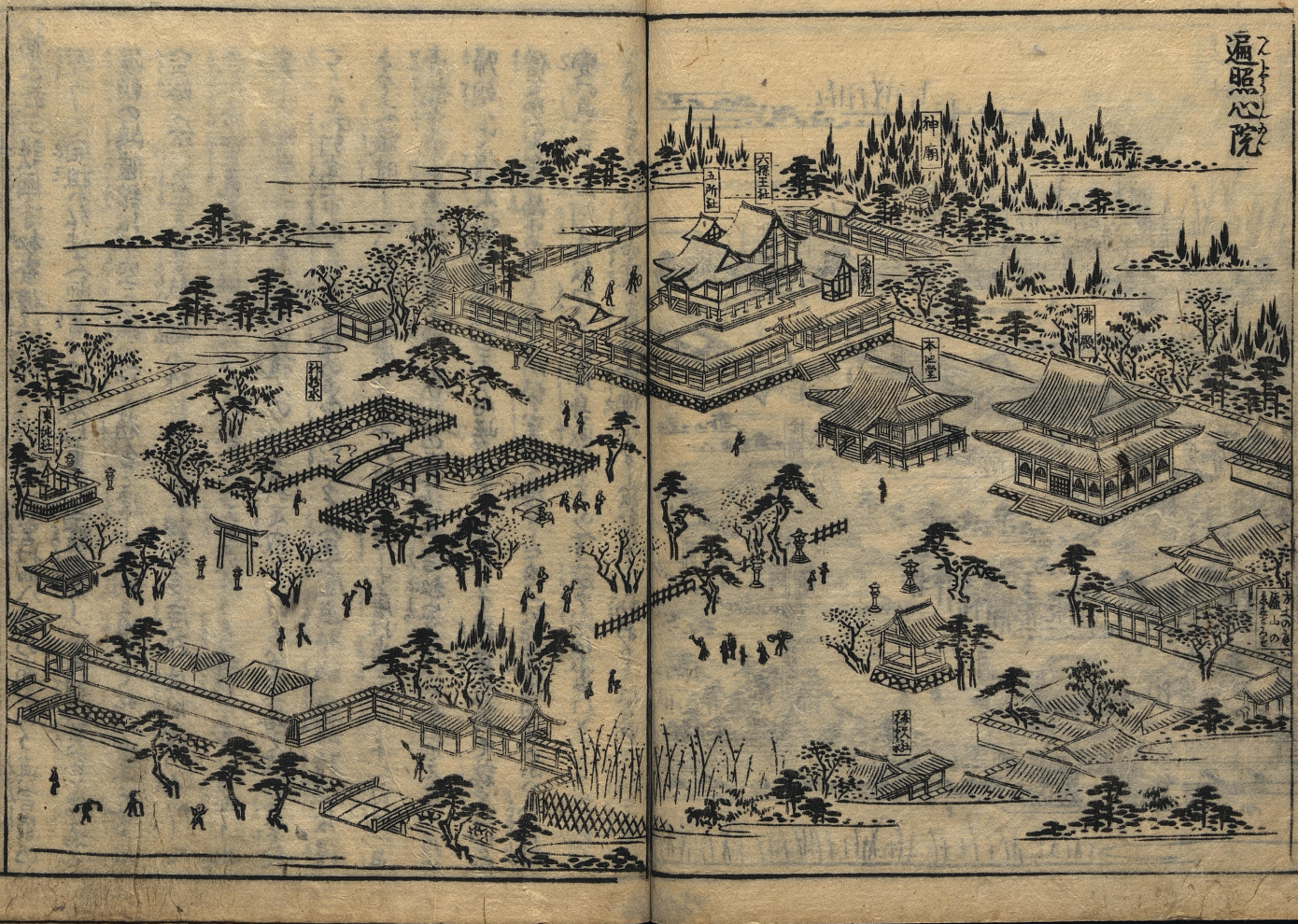

芹根水


稲荷神社
吉井社

東寺






遍照心院
神廟
六孫王社
五所社
佛殿
本地堂

八幡山教王護國寺秘蜜傳法院　東寺又名寺大宮ト西八條ノ南ニアリ真言宗ノ
源ヲ開祖弘法大師唐ニ渡リ大内裏ノ鴻臚館ヲ以テ来朝ノ賓客ヲ傚ヒ
漢朝ノ鴻臚館ニ不空三藏ヲ給ヒ精舍ヲ営ミ真例ヲ准ヘテ弘仁四年左ノ如
空海ヲ給ヒ右寺ヲ以テ給ヒ綸旨ヲ下シ弘法大師ヲ請ジ多度郡屏風浦ノ産ニシテ
光仁帝寶龜五年ニ誕ジ十八歳ニシテ大学ニ入リ志佛經ヲ好ミ遂ニ出
家シ延暦十四年東大寺ノ壇ニ登リ具足戒ヲ受ケ名ヲ空海ト改メ要ヲ
取テ和訓高市郡久米道場ノ東塔ノ下ニ大毘盧遮那神變加持經ヲ得
ル之ヲ議暁シ又延暦廿三年入唐シ唐ノ貞元廿一年二月十一日
青龍寺ノ慧果阿闍梨ニ謁シ両部ノ經ノ奥儀真言秘密ヲ受ケ同二十年十月ニ
帰朝シ傳来ノ密法ヲ弘ムル時ニ嵯峨帝勅ヲ奉ジテ内裏ニ於テ諸宗ノ名
僧ヲ招キ空海ヲシテ所ノ宗義ヲ論ゼシムルニ皆空海ノ曰ク我宗ハ大日ノ神
變ノ真言ニ及ハス即身成佛ヲ以テ諸宗ニ勝レタリト議論ス
ルニ帝空海ノ即身成佛ヲ疑ヒ勅ヲ下シ則五藏三摩地
觀ヲ入ル首ヨリ五佛ノ寶冠ヲ出シ身ヨリ五色ノ光明ヲ放チ面猶金色ニシテ毘盧
遮那佛ト為ノ帝ノ御座ヲ取テ之ヲ諸宗ノ僧公會シテ始メテ之ヲ證論
ス空海真言ノ
死ハ有テ生ノ不思議ノ人ニ人アリ生アリテ死ニ入ル人九ニ
金堂　本尊薬師佛脇士日天月天ノ像　講堂　本尊八大日如来脇士ハ
豊臣秀頼公ノ再建ニ係ル　金剛菩薩五大尊ノ像ニシテ五
等ノ仏画　食堂　本尊八千手千眼観世音聖寶僧正ノ作リ脇士ハ地藏毘沙門ニシテ八部
衆ノ像ヲ画ク
夜叉神　雌雄ノ夜叉神ヲ安ス大師ノ所作ナリ　五重塔　四仏ノ舎利ヲ
焼生ス之後　御當家ノ再建ニ係ル
八幡宮　大師祈願ヲ拝シテ影刻シ之ヲ八幡社　故ニ境内ノ神
寶藏　大師ノ持念ヲ蔵ム　鼓童堀　宝蔵ノ南ノ池辺ニアリ　南大門　二階ノ楼門ニシテ
安土ニ東ハ慶長ノ作リ　蓮華門　西ノ門ヲ入ル大師入定ノ門ニシテ
西ハ濶慶ノ作リ　東ノ門ヲ入ル
猫瓦　異ノ方ノ架北ノ上ニアリ此猫造営ノ時ニ

西院開祖弘法大師の影を安置ス 法眼康勝の作なり 後堂ニ大日 不動
大黒天 西の院の傳ニ曰ク 愛染明王 宝持院ニ 四天王 毘沙門
三鈷松 西の院のまへにあり 大師 唐土より歸朝の時 此松に
松つま房松 西の院にあり
の松なり 此二葉

櫻雲記曰 元弘三年五月六波羅攻落の時 従二位
任醍醐天皇則入給ひ 櫛引書写ふて新田義興
より 小條高時滅亡のよしを 楠正成兵庫に
迎奉る 御輿 勅額 ふりて 東寺へ 御幸松の
前大僧正賴意ら 供奉

植並むかしや 苔の下 なれ 師葉を松風の
羅城門の舊趾ハ朱雀通 今の千本通 四塚ふあり 此門ハ 桓武天皇 平安城造営の時
初て建給ふ 天図裏れ面ふて 外郭 惣門なり 樓上ニ毘沙門天を安置ス
今 東寺の 教王堂ふあり

梅波錄ニ曰 都良香死後 ある夜 鼠 風 新 髪 泉
くりくりハハ 様 ふ 有 ふて 氷 消 滅 洗 旧 苔 髪 ふ
ふれ 仮 寄 御 の 中 ふ て 孫 くりくれ 自 数 ふ

當祥山大通寺遍照心院ハ條御門ふあり 此地ハ源經基公の殿舎ふて
天徳五年ふ薨じ給ふ後 此所ニ 亜廟を建六孫王権現と崇奉る 真俗錄
倉右右實朝公の後室二位禅尼大檀越ふあり 真空律師 祝請して
開山 〻 城律ニ論 真言等兼学の梵刹となるふり

佛殿 本尊阿弥陀佛 本地堂 本尊不動明王
勢慶の作なり 興教大師の作

六孫王社ふハ所ハ經基公の神霊ニ源氏の祖神ふて 御當家ニ造営ふり
社前ニハ法燈ふり奉納の石燈籠 神廟 本社の後 貞純親王社ふあり
数ふあり 九月十一日 神輿 社の祭ニ
社龍社 御前の池ふつく例ふハ 辯財天社 長さ五寸余 源滿仲ニ遣せの
弘法の作ふあり 誕生水 此ふあり 仮ニ
弁天堂ふハ 滿仲ニ遣せの 立像長二尺五寸 安阿弥の作ふて 親王の 聖人の 持尊
七井の其一つふり 洛陽の名水 阿弥陀佛 立像長二尺五寸 安阿弥の作ふて 親王の 聖人の 持尊
の御當寺ふ持ふ 今門内の 寶公 定朝の作
寶藏ニハ二月十八日開帳ふり 寶公 定朝の作
方丈の庭 廬山の 遠州の 模して
庭中 遠州の
滿仲公誕生地 ハ條通大宮の西ふあり 歓喜森 七条道場金光寺の恵ふあり 此所ハ
今 六孫王神社ふ 寿院の旧地ふり
福大明神森 去せ通の東端ふあり 人丸塚 坂後通る辻の南ふあり
由来詳ふ



浅原
出口ゑん
けいせいの
賢ちゃん
此柳が
真角

鴻原傾城町は朱雀野にあり此所上古は鴻臚館の地なり中須は観喜壽院の封境にして西口の畠は字は堂の口といふ又傾城郭は万里小路（今は柳る場）二條の南方二町あり其先は東山殿（義政公）遊宴の地なり天正十七年京二郎左衛門林又一郎といふ浪人上訴によりて傾城町を免許せられ一の郭を設けしあり地名は新屋敷と號し又柳の雙樹ありしは柳町とも称ず（今の出口の柳は此遺風也）其より十二年を歴て慶長七年に六條へうつされ今の室町新町西洞院五條橋通の南にて方式町の郭之中に小路二通ありしにより二筋町と號ず（六條通今の魚棚西洞院川にかゝる石橋は傾城町の入口にして此時かけ初しと今にあり又室町又条の南西側醍醐の居宅異風なり此時の忘れにして今に存せり）又寛永十八年に今の朱雀野へ移さば鴻原と號るあるは其須肥前の鴻原に天草四郎といふもの一揆は起し乱に及ぶ時此里もあてすうつされ騒しかりければ世の人鴻原と異名はけしとり遂に此所の名とせり